

立命館大学 TRPG 倶楽部会誌

冒険の書 惨番



立命館TRPG倶楽部会誌『冒険の書 惨番』を手を取っていただき、ありがとうございます。

今回のリブレイ執筆、及びゲームマスターを務めさせていただいた八十と申します。

早いもので、当サークル会誌も三冊目となりました。これも偏に皆様のご声援のおかげです。これからもTRPG倶楽部は走り続けていきますので、どうかご声援の程宜しくお願い致します。

さて、今回の会誌で用いたシステムは『マルチジャンルホラーTRPG インセイン』です。

インセインは、『リ〇ゲ』や『着〇アリ』のようなモダンホラーからゾンビ映画のようなサバイバルホラー、吸血鬼や狼男の登場するゴシックホラー、人の心の闇を描いたサイコホラー、そして最近流行りの『クトゥルフ神話』のようなコズミックホラーまでありとあらゆるホラーシナリオを遊ぶことができるというシステムです。

ブレイヤー達は、怪異に巻き込まれ、数奇な運命をたどることとなる逢魔人となり、周囲で起こる怪事件に立ち向かいます。逢魔人は、特殊な力を持たないごく普通の一般人です。そんな彼らは皆、己の中に人には言えない【秘密】を抱えています。時には、狂気的な殺人衝動を隠していたり、邪神復活を目論んでいたりする逢魔人もいます。

また、インセインで語られる出来事は、総じて一般人の常識では計り知れないものばかりです。それに立ち向かう逢魔人の前には、おぞましい恐怖や冒険、そして【狂気】が幾重にも降りかかっています。非力な存在である逢魔人はこうした【狂気】に耐え切れずに記憶を失い、危険な妄想に囚われ、果てには心が壊れ、錯乱してしまうかもしれません。

このように恐怖に苛まれ、【秘密】と【狂気】の間で揺れ動く人間たちを描いたのがインセインというシステムなのです。

四人の逢魔人によって語られる恐怖の出来事と、各々の【秘密】と【狂気】によって狂わされた彼らの運命を、お楽しみください。

ようこそ、恐怖の劇場へ

用語解説

ここでは、本編中に出てくるTRPG用語、インセインで登場する用語の解説を行います。

●GM

ゲームマスターの略。このゲームにおけるホストプレイヤーで舞台の準備、演出やルールの裁定などのデータの処理を統括する。

●PL

プレイヤーの略。それぞれ一人ずつがPC（後述）を作り、PCを演じることによってゲームに参加する。

●PC

プレイヤーキャラクターの略。PLがゲームに参加する際の分身となる存在。本リプレイ中ではPCの発言は「」で表現される。

●XdY

サイコロを振って値を求める時に使う呼称。xには使用するサイコロの数が、Yには使用するサイコロの面の数が入る。例えば2d6ならば6面体のサイコロを2つ振るという意味。

●逢魔人 おうまがびと

怪異事件に巻き込まれ、数奇な運命をたどることになった人々。彼らはなんの力も持たない一般人であり、超自然的な怪異の前では皆一様に非力である。

●秘密

逢魔人それぞれが心の中に抱えている秘密。誰しもが、平和な秘密を持っているわけではなく、時には自らの狂気を己の中に隠している者もいる。もしかすると、あなたの隣に座っている友人は、狂気に染まった快樂殺人鬼かもしれないのだ。

●狂気

逢魔人は、自らの心の許容を越える怪異と出会ったとき、その恐怖から人知れず狂気を抱えることがある。これらの狂気は、ふとしたきっかけで記憶喪失や妄想、暴力衝動といった形で顕在化する。そして、その狂気が己の臨界を越えてしまうと、逢魔人の心は壊れ、錯乱状態に陥ってしまう。

今宵の逢魔人は【プリプレイ】

2014年、夏。台風の前近く京都某所に5人の男が集まっていた。

窓の外に立ちこめる分厚い雲は、これから始まる物語を暗示しているかのように見えた。

そんな中、一人の男が口を開く。

GM：さて、それではこれよりインセインのセッションを始めたいと思います。よろしくお祈りします。

一同：よろしくお祈りします！（パチパチ）

GM：ここにおられる皆様はもう何度かインセインで遊んだことがあるということですが、改めてインセインとは何ぞやというところ説明したいと思います。

『インセイン』は、ありとあらゆるホラーシナリオを遊ぶことのできるマルチジャンルホラーRPGである。

プレイヤーは恐怖と狂気の間で揺れ動く逢魔人となり、恐ろしい怪事件と対峙することとなる。

GM：まあ、逢魔人なんて御大層な名前ですが、要は一般人です。

暗刻鍋：ほうほう。ちなみに今回のシナリオジャンルは？

GM：今回はモダンホラーですね。『リング』とか『着信アリ』とかを想像していただければわかりやすいかと。

タッキー：くーるー、きつとくるー

GM：そうそう、そんな感じ。それじゃあ今回皆さんにやって頂くキャラクターを作っていきますよ。

雅：あれ？GM、ハンドアウトは？

GM：ああ、今回ハンドアウトはPC番号だけ先に決めておいて、導入が終わってから渡します。導入開始時点ではまだ何も始まって

リング

一九九八年公開された

ホラー映画。未だ人気の

高い「貞子」の原点。

着信アリ

二〇〇四年に公開され

たホラー映画。劇中に登

場する「死の着信メロデ

イ」が話題となった。

くーるーきつとくるー

映画「リング」の主題歌の

サビの一節。ホラーに限

らず色んな番組で使わ

れているため、耳にした

ことのある人も多いので

は。

ないからね。

ハンドアウトとは、通常セッション開始前にPLに配られる、シナリオ内でのキャラクターの立ち位置とキャラクターの目的、「使命」を示したものである。

インゼインでは、通常のハンドアウトの他に「秘密」と呼ばれる裏ハンドアウトがあり、大抵の場合、そこにキャラクターの「本当の使命」が書かれている。この「本当の使命」を達成することが逢魔人たちの基本スタンスとなる。

バンドー：嫌な予感しませんがね（笑）。

GM：そのあたりは見てからのお楽しみで（笑）。さて、今回の導入ですが、皆さんに今回登場するNPCの【小室栄子】と【柚木樹里】を加えた6人組は大学で仲の良いグループです。期末テストを終えたある日のこと、栄子が皆を肝試しに誘うところから物語が始まります。

タッキー：なるほど。ちなみにどこに？

GM：廃病院ですね。ということですので、皆様には今回大学生のキャラクターを作ってくださいませ。

一同：はい。

GM：あ、そうそう。それと今回、皆様のキャラクターの性別を男女2人ずつになるように相談して決めてください。

暗刻銅：お？OK、OK。

雅：なんかもう既にいろんな意味で怖いなあ。GM悪い顔してるし（笑）。

GM：さてさて、それでは各自キャラクターの方を作ってくださいいな。

一同：はい。

廃病院

5

肝試しの定番スポット。

病院に限らず、廃墟は
やんちゃな若者たちの
度胸試しスポットの標
的になりやすい。

GMの悪い顔

大体こういう時はろく
でもないことを考えてい
る。

TRPGをやっている楽しい時間の一つがこのキャラクター作成の時間である。
インゼンでは、キャラクター作成ルールに則ってキャラクターの「特技」や「アビリティ」、「好奇心」、「恐怖心」を決定していく。
これにより、今回のシナリオに登場する個性的な逢魔人たちが創り上げられていくのだ。

GM：さて、それでは皆さんのキャラクター作成も終わったようですので、キャラクター紹介に移りたいと思います。
一同：はい。

GM：それではまずPC①から。

PC①を担当するのは雅君。冒険の書二番に引き続き、2度目のリプレイ参加で部内では常識人キャラを演じることが多い。が、時折思考すること放り投げることも。



こいずみかずひこ
仲間思いの医学生・小泉和彦

性別：男 年齢：20 職業：大学2回生(医学部)
生命力：6 正気度：5
好奇心：情動 恐怖心：へ畏
特技：へ破壊×へ悦び×へ怒り×へ乗物×へ医学×へ夢
アビリティ：【基本攻撃】【戦場移動】【かばう】【頑健】

特技

キャラクターの長所や
今までの経験。例えば、
へ乗物へであれば何らか
の乗り物の運転ができ
る、など。判定に用い
る。

アビリティ

怪異に立ち向かうため
の技術や能力。攻撃や
サポートなど多岐に渡
る。

好奇心

キャラクターが特に興
味のある分野。その分
野の判定に成功しやす
くなる。

雅↓和彦…小泉和彦（こいずみかずひこ）です。年齢20歳の男です。職業は大学生。

GM…学部は？

和彦…学部……。医学やってるんで、医学部かなあ。

GM…医学部か。じゃあ二回生あたりにしとくか。

和彦…そうですね。まあ、医学部と言っても見た目はオールバックに茶髪です。ウエイイ系（笑）。

暗刻鍋…これ文学部や！

一同…（笑）

和彦…一応真面目に勉強はしますが、元がヤンキー上りです。色々とケガをさせすぎたので反省をした結果、治す方向を目指そうと。

GM…お、おう。

和彦…その色々は言わないよ。設定考えてないからね！あ、〈乗物〉とってるんでバイクとか好きです。あと腕つぶしはそこそこ強い

ですかね。【好奇心】は情動。情に流されやすいタイプです。で、【恐怖心】は〈畏〉です。直球勝負！って感じですね。アビリ

ティは【かばう】と【頑健】とってます。以上！

暗刻鍋…硬い。これは硬い（笑）。

和彦…みんなを守る。それだけのために生きる！（キリッ

GM…以上ですかね？よろしくお願ひします。

一同…よろしくお願ひしまーす。

恐怖心

キャラクターが特に恐れている現象や存在。特定の恐怖に抗い難くなる。

これ文学部や！

ひどい偏見である。

かばう

仲間が攻撃対象になった時、仲間をかばいだメージを肩代わりするアビリティ。

頑健

生命力を上昇させるアビリティ。ガチムチ。

生命力

ヒットポイント。体力。



恋に憧れる無口な姉・**北大路冬香**

年齢…20 性別…女 職業…大学2年生(芸術学部)

生命力…6 正気度…5

好奇心…情動 恐怖心…戦争

特技… \wedge 恋 \wedge 味 \wedge 芸術 \wedge 整理 \wedge 教養 \wedge 夢 \wedge

アビリティ…【基本攻撃】【戦場移動】【目星】【資産】

アイテム…「鎮痛剤」 \times 2「お守り」 \times 2

女子力

清らかな人間がもつ神
秘の力。スカウターで測
れる。

資産

お金を持っていることを
データの表すアビリ
ティ。追加のアイテムが
得られる。

目星

誰かが情報を得た時に
ついでに自分も見ること
ができるアビリティ。強
い。

鎮痛剤

生命力が正気度を一
点回復するアイテム。

GM…では次、PC②の方。

PC②を担当するのはバンドー君。昨年度学園祭後に入学したフレッシュさを残した、絵のうまい2年生。

もちろん、今回の会誌のイラストを担当してくれる。

バンドー↓冬香…北大路冬香(きたおおじとうか)といいます。年齢は20歳、性別は女。芸術学部に所属しています。それですね、

私には妹がおります。

GM…ほう。

暗刻鍋…誰のことかな(笑)。

冬香：ですので、普段からお部屋の整理をしたりだとか料理を作って食べさせてあげたりとかしています。

和彦：女子力高そう。

GM：20歳ってことは2回生かな。

冬香：はい、2回です。【好奇心】は情動で、少し恋に憧れてますね。【恐怖心】は〈戦争〉です。「戦争はやめた方がいいんじゃない

い?てか、やめろよ。」みたいな。そんな感じですよ。アビリティは【資産】と【目星】を持っていますね。【資産】で「鎮痛剤」と「お守り」を所持して、合計で「鎮痛剤」と「お守り」をそれぞれ2個ずつもっています。よろしくお願ひします。

一同：よろしくお願ひします。



優しい人間観察者・痕楽斎

あとらくいつき

性別：男 年齢：20 職業：大学2回生(人類学専攻)

生命力：6 正気度：5

好奇心：知覚 恐怖心：靈魂

特技：△殴打××笑い××第六感××効率××人類学××終末

アビリティ：【基本攻撃】【戦場移動】【精神分析】【地位】

アイテム：「鎮痛剤」「お守り」

GM…では次、PC③の方。

PC③を担当するのはタッキー君。今回のリプレイ収録にあたって、部屋を貸してくれた。飄々としたキャラクターを演じることが多い。

タッキー→斎…名前は痕楽斎（あとらしくいつき）です。

一同…漢字を教えてください（笑）。

斎…年齢は20歳、性別は男性。大学生です。

GM…学部は？

斎…えつとですね、人類学をやっているんですけども。

GM…ということは人類学部としておこうか。

斎…じゃあそれで。性格は明るくて、誰にでも分け隔てなく接するコミュニケーションの高い青年です。しかしですね、趣味は人間観察です。

和彦…うわあ。

斎…いつもニコニコと笑いながら、心の中で相手の心理を観察するのが趣味です。そんな感じの人当たりの良さと誑心術です、

かなり広い人脈を獲得しています。今回はその広い人脈の一端で今回の一件に関わっていかうかと。【好奇心】は知覚、【恐怖

心】は霊魂です。彼はですね、人間は好きなんですけれども、非科学的なものは苦手なわけですよ。ですが、今回はノーと言え

ない人当たりの良さから関わっていきます（笑）。

和彦…ノーって言えよ！コミュニケーションあるんだったら（笑）。

暗刻銅…家で頭抱えるタイプだな。

斎…アピリティは人間観察という意味での【精神分析】と得た人脈ってことで【地位】をとっています。そんな感じですね、よろしく

お願いします。

一同…よろしくお願ひしましす。

正気度

キャラクターの心の余裕。ショックを受けると下がり、正気度以上の狂気が表に出ると精神崩壊する。

お守り

自分以外の誰かの判定を振り直させる。強い。

精神分析

相手の抱える狂気や精神状態を見ることのできるアピリティ。

地位

顔が広いことを表すアピリティ。調査に強くなる。



物静かな後輩兼妹・北大路春花

きたおおじしゅんか

性別：女 年齢：19 職業：大学1年生(医学部)

生命力：6 正気度：5

好奇心：知識 恐怖心：官能

特技：△恥じらい△愛△物音△医学△民俗学△混沌△

アビリティ：【基本攻撃】【戦場移動】【危険感知】【資産】

アイテム：「鎮痛剤」「武器」「お守り」×2

GM：では最後、PC④の方。

PC④を担当するのは、暗刻鍋氏。こちらも前回からの続投で、今回もそのロールカをいかに発揮してくれる。

暗刻鍋↓春花：名前は北大路春花(きたおおじしゅんか)。さっきどこかで紹介に預かった妹の方です。年齢は19、性別は言わずもがな

女性。医学部の大学生です。一回生。せんばーい。

和彦：えっ？うわあ、うわあ。

春花：よかったねえ、〈医学〉丸かぶりだよ。今回は清楚系を目指そうと思う。できるとは言っていない(笑)。どっちかっていうと全体的に線の細い子。一言で言うならおとなしい感じの子だね。おとなしい系のお嬢様って考えてくれるといいと思うよ。【資産】もつてます、お嬢様な意味でね。いえーい。

冬香…姉妹共々お金持ちー。いえーい。

春花…というわけで、医療の方向に進むためにがんばってるピチピチの一回生です。【好奇心】は知識、どっちかっていうと勉強するの

危険感知

咄嗟に危機を感知する

ことのできるアビリテ

イ。

和彦…えっ。

春花…おい。このチャラ男め。

肉壁

肉の盾、壁とも。要す

一同…(笑)

春花…なので、下ネタ系の話題とかが苦手な子だと思ってくれば。あとは、アビリティもう一個は【危険感知】。だからこの子戦闘能

るにかばう持ち。

力はないよ。知識はあるけど。

冬香…この姉妹ないよ(笑)。

春花…がんばれ肉壁。

和彦…ウツス。でもその前に頑張つて逃げよ？(汗)

冬香…この姉妹両方とも純真ですよ。官能苦手とか恋に興味あったり。

春花…〈愛〉はとつてあるからね。

斎…仲いいなあこの二人。

GM…以上ですかね？よろしくお願ひしまーす。

一同…よろしくお願ひしまーす。

序章【導入フェイズ】

小室 栄子 13

1. 夏休みの相談

とある地方大学に所属する和彦、冬香、齋、春花、そして栄子と樹里は高校時代から続く仲のよいグループである。

彼らは今、ようやく終わった期末考査を振り返りながら互いをねぎらいつつ、これから来る夏季休暇に思いを馳せていた。

そんな中、栄子が夏休み最初の企画を口にする。

発なタイプで、友人たちを引っ張っていく。
柚木 樹里

GM：それではこれよりセッションを始めさせていただきます。よろしくお願ひしませう。

一同：よろしくお願ひしませう。

GM：はい、まずは導入フェイズです。物語の始まり、いわゆるオープニングチャプターです。ここでは皆さんがどのような事件

と関わることになったが描かれます。さて、早速ですが皆さんは現在、食堂にいます。ちょうどテストが終わってお疲れーという

対照的におとなしく、いつも一歩引いた立ち位置にいる。

ところからスタートですね。

和彦：このグループ女子多いなあ（笑）。そういえば栄子さんと樹里さんは何学部なんですかね？

GM：じゃあ人類学部で。

GM（栄子）：「終わったー。やっと夏休みだよー」

和彦：「ま、俺は早いこと終わってただけだな」

GM（栄子）：（ぐっと背伸びをしながら）「でも医学部って大変だったんじゃないの？テストとか」

和彦：「まあ、うん……。ど、どうだった？」（春花の方を見る）

春花：「えっ、私は……。指で数えながら）そんな大した数じゃなかったの」と言いながら文系学部の倍ぐらいあるみたいな（笑）

GM：まあ一回生の頃はね(笑)。

斎：「人の心配をしている暇があるのか、栄子？」

GM(栄子)：「やめてくんない、そういうこと言うの……」だいぶ辟易した様子ですね。

冬香：「私はテストというようなものはあまりなかったんですね。提出物は多かったですけど」

GM(栄子)：「あー、芸術学部はやっぱ絵を描いて提出したりとかになるのかな」

冬香：「うん、作品を出さなきゃだめだから」

GM(栄子)：「大変だねえ。ところでさっきから黙ってる樹里さんはどうよ？(ニヤニヤ)」

GM(樹里)：「えっ、まあそこそ……(苦笑)」

GM(栄子)：「(小声で)あたしだけか……」

一同：(笑)

和彦：「そう思うなら勉強しなきゃ」

GM(栄子)：「和彦にそう言われると、栄子は聞き飽きたとでも言いたげな顔をしてからパツと表情を切り替えて「いや、もうヤメヤメ！」

せつかく夏休み入ったんだしさ、どっか遊びに行こうよ遊びに！」と切り出します。

和彦：「どこか目星でもつけてんの？てかみんな空いてんの？」

冬香：「私は……大丈夫」

斎：「俺はどこかに行くならもちろん行くよ」

和彦：「ふーん。バイトとかないの？俺はしてるけど」

斎：「俺もいくつかはしてるけど。ま、時間ならいくらでも作れるさ」

GM(樹里)：「栄子、遊びに行くって言ったってどこかあてでもあるの？」

GM(栄子)：(不敵な笑みを浮かべて)「フフン、実はさ。一か所おもしろそうな所があつてね。稲葉病院つて知ってる？」

GM：稲葉病院はですね、隣町にあるそこそこ有名な廃病院です。いわゆる心霊スポットつてやつですね。

冬香：百人乗つても大丈夫なわけですね。

一同：(笑)

GM：それはわかんないな(笑)。

和彦：稲葉病院……。聞いたことあるな。隣町だっけ？」

GM(栄子)：「そうそう。そこそこ有名らしくつてね」

春花：「廃病院、ですよね……？」

GM(栄子)：「どうよ？つて顔してます。」

斎：「ゆ、有名つて、その……」

和彦：「まあ廃病院だし、そういうあれじゃないか？」

斎：笑顔がピシツて固まります(笑)。

冬香：「ああ、そういえば提出された作品の中にあれの絵があつたね」

和彦：あれの絵つてなんだよ(笑)。

GM(栄子)：固まった斎を見てニンマリとした笑顔を浮かべた栄子は斎の背後に回り、ボンと両肩に手を置いて「肝試し、どうよ？」

和彦：(斎の方を向いて)「あれ、行かねえの？それだつたら男俺だけになるんだけど……」

GM(栄子)：「斎くうくん、さっきどつか行くなら行くつて言つたよね？」

斎：(一通り見まわして)「あ、ああ。もちろん行くよー」

GM(樹里)：「えつ、斎くんも行くの……？なら私も行くしかないかあ……。そういうとこ苦手なんだけどなあ」

和彦：「別に苦手なら行かなくてもいいんじゃないか？」

GM(榮子)：「いやいやいや、せっかくだらね。話を聞いてしまったからにはいかないと」

齋：「た、確かに俺が行かないと和彦が一人になっちゃうからな！」

和彦：「別にいいけど……。女子勢かわいいな」

春花：「でも、なにも整備されていない施設に入るのは危険ではないのでしょうか？」

GM(榮子)：「そこそそ有名ってことはそれなりに人も行ってるはずだし、大丈夫なんじゃないの？じゃあ皆行くってことでいいかな」

冬香：「うん。作品の参考にもなりそうだし」

和彦：「ちなみにいつ行くよ？」

GM(榮子)：「そうだなあ……。一週間後とかどうよ？」

和彦：「(手帳を取り出して) ああ、一週間後ならいけるよ」

齋：「空いてる・・・(絶望)」

一同：(笑)

冬香：「この日なら大丈夫かな」

GM(榮子)：「じゃあ一週間後ね」

和彦：「じゃあ車だすよ」(乗物を持つてますし。)

GM(榮子)：「おっけー、ありがとう。じゃあ駅前集合ね！」

GM：というところで、一旦シーンを区切りたいと思います。

一同：はい。

危険

病院を歩いていると床が抜けて地下帝国を見ついたり、謎の秘密結社が儀式をしていたり。しない。

2. 廃病院の肝試し

1週間後、和彦達は駅前が集まり、車に乗り込む。隣町と言っても少々距離があるため、和彦達は高速道路を使い、山のふもとにあるICを降りて山の中へと入っていった。途中から舗装されていない山道を進んでいくと、黄色と黒のロープが張っており、「立ち入り禁止」と書かれた錆びた看板が吊るされているところに所に出くわした。どうやらここで行き止まりのようだ。

GM(栄子)：車が止まると、栄子は窓を開けて顔をだし、前を覗きこんで「車で行けるのはここまでかな」と言います。

和彦：「そうだな。車ここに置いて大丈夫かな……」

GM(栄子)：では頭を引っ込めて「人もいないし大丈夫じゃない？」

和彦：「ま、それもそうだな」

春花：「行って見て帰ってくるだけでしたらすぐですし……」

斎：「ああ、すぐ行ってすぐ帰ってこよう（汗）」

GM：では車を降りて、ロープをまたいでみんな道を進んでいきます。

和彦：「足元とか気を付けてな、女の子」

冬香：「ええ、私は大丈夫だけど春花大丈夫？」

春花：「うん、私も……」と言いなながらゲシッてこけたりする（笑）。

和彦：じゃあガシツと受け止めて「ほらもう言った傍から」

春花：「ごめんなさい」

GM：夜中ですからね。懐中電灯がないと真っ暗です。風も吹いて周囲ではガサガサという木々の揺れる音や風鳴りなんかも聞こえます。

和彦：「な、中々あれだな。雰囲気があるな（汗）！」

17
立ち入り禁止

人は入るなって言われると入りたくなる。その心理を突いた巧妙なトラップ。入れという意味。

GM：栄子は「おーやべー(笑)」みたいなちよつと余裕ある感じですね。樹里は栄子の腕にしがみついています。「やばいよ、帰ろうよ(泣)」
みたいな雰囲気。で、そのまま登っていくと少し開けた場所に出ます。その奥にもう“THE廃病院”みたいながありますね。

THE廃病院

SINPLEZNOOシ

GM(栄子)：「お、ここだね」

リース。

和彦：「ほー、中々だな」

写真

冬香：「ああ、あの人こういう構図で描いてたな」

GM：その人ここまで来てたのか(汗)。

お分かりいただけただ
ろうか……

GM(栄子)：「カメラあるよ。写真撮るところ」カバンからデジカメ取り出して病院の外観とか撮ってます。

春花：「よろしいんでしょうか、ほんとにこれ……」

和彦：「まあばれなきやいいんだし」

GM：で、非常口的な入口があるわけですが、扉は空いています。中に入ろうと思えば入れますね。

和彦：「じゃあ……入るか？」

GM(栄子)：「え、むしろ入らないの？」

和彦：「俺らはそりゃ覚悟できてるし行く気満々だけど……斎とか春花とか」

春花：「やつぱり行くんですか……？」

斎：(和彦に近づいて耳打ち)「もしかしたらおかしな奴がいるかもしれないからそっちの方を気を付けよう」

和彦：「ま、いた時はみんな俺を守るから大丈夫だ、安心しろ。」

春花：「お、かつくいー」

GM(栄子)：「じゃ、行くよー」

冬香：「春花、私の後ろについてなさいな。」

春花：「えっ、あ、はい。」

GM：栄子はズンズンと進んでいき、樹里は「ちよつと待ってよ栄子」という感じ。

和彦：じゃあ俺は一番後ろにしよう。しんがりの意味で。

斎：じゃあ私は先陣を切りましょう。

春花：おお、いつてらっしゃい（笑）。

稲葉病院へと入っていく一行。病院と言ってもそこまで大きな病院ではなく、2階建ての小さな病院である。一階は長い廊下に診察室や受付が連なっており、周囲には埃のかぶった待合室の長椅子が転がっている。床にも埃がたまっており、長い間放置されていることが感じられる。和彦達が廊下を進んでいくと、突き当りにそれぞれ上下階へとつながる階段が現れた。しかし、下に行く階段には大きな事務机が積み上げられており、下階へは降りられないようになっていた。

一同：ああ。

春花：これ謎解き進めると通れるようになるやつや（笑）。

GM：二階には入院患者の病室があつて、ボロくなったベッドとかカーテンがちぎれてぶらさがつてたりとか、ほんと廃病院らしい廃病院です。

斎：なるほど。一階とかの探索は？

GM：ああ、もう特に探しても万葉丸とか九〇式フィルムが落ちてるとかはないのでいいですよ。雰囲気があるだけの廃墟という感じですよ。

一同：（笑）

和彦：「特に何かいるというわけでもないな。いるわけねえけど」

GM(栄子)：「でもやっぱり雰囲気はあるよね。夜中だからかひんやりもしてるし。」

和彦：「あ、あそこなんかいるぞ。」

GM(樹里)：「やめてよもー!」

冬香：「痕楽君、ビビりなのによく先陣切ってるよね」

斎：「こ、怖くなんてないさ。幽霊なんているわけがないんだ! (震え声)」

春花：「体調がすぐれないんですしたら早めに出た方がよろしいかと……」

斎：「お気づかいありがとうございます。だが大丈夫だ(震え声)」顔色は悪い(笑)

和彦：「お前の後ろなんかいる……」

斎：(サーツ)

GM(栄子)：「じゃあ振り向いたら栄子が懐中電灯下から照らして「みーたーな」

斎：(硬直)

一同：(爆笑)

GM(栄子)：「齋面白いわあ(笑)」満足そうに笑います。

斎：「(栄子の肩をつかみ)おーまーえーはー!」

GM(栄子)：「でもあらかた見たし、そろそろ出る?」

和彦：「まあいい時間だしな」

「帰ったら飲みにも行くか」などと話しながら一階へと下りていく和彦達。すると、栄子が「あれ?」という声を上げた。何事かと和彦が聞くと栄子は「今、下の階段に女の人が出たような……」というのだ。しかしそこは、机が積み上げられたバリケードの向こう側で人など通れるはずもないところであった。

GM：「では皆さん、ここで〈物陰〉で判定してみてください。」

ひんやり

怪談を聞くと人間の体温は本当に少し下がるらしい。

みーたーな

お約束。

和彦…(コロコロ) 成功です、余裕。でもこれ成功しなきゃいけない場合もあるんだよなあ。

冬香…(コロコロ) こちらも成功。

春花…(コロコロ) あ、いち足りない。

斎…(コロコロ) 成功です。

GM…成功した方々は、栄子に言われて下へ行く階段の方を見ると、バリエードの向こう側、階段の踊り場の所を女の人、髪の毛長い、黒髪の女のの人がスウーッと横切ったような気がしました。

和彦…「誰か、いた？」

春花…「へ？」

冬香…「私も今何か見えたような気がしたんだけど……」

春花…「私は何も見えませんでしたけど……」

GM(栄子)…では栄子は階段から視線を戻し、階段の下を指差しながら「うん、今女の人が見たからこつち見てたよね?」と言います。

栄子自身は特におびえた様子はなく、どちらかというと「なんだ今の」という疑問の方が大きいような感じですね。

和彦…「こつち見てたの?俺は通り過ぎたように見えたけど……」

冬香…「といつても、見えたような気がしただけだし……」

春花…「でも、人が入れるようなところじゃないですよね……」

GM(栄子)…「だよねえ。なんかの見間違いかなあ。ま、こういふところにいるしね(笑)」と言いつつもどこか腑に落ちていない様子。

和彦…「(斎の方を見て) だってよ」

斎…「気のせいだ。ああ、気のせいだ」

和彦…「そうか、だいたいな(笑)」

判定 21

インセインの特技は6×11の表に配置されており、そこからつつの特技を取得する。判定で指定された特技を持っていない場合、その特技に最も近い自分の所持する特技で代用することができる。但し、この時それらの特技が離れていればいるほど判定に必要なダイス目は高くなる。
成功しなきゃいけない
ろくでもない物だと気づいてしまう判定。大概キャラクターの精神に傷をつけていく。

斎：「幽霊なんていない、幽霊なんていないんだ……」

GM(栄子)：「(斎の肩にポンと手を置いて)」「こいつも言うてることだし、そろそろ帰ろうか。」

GM：ということで、皆さん車に乗り込みそのまま帰ったということになります。さて、それではここで皆さんお待ちかねのハンドアウトをお渡ししましょう。(全員にハンドアウトを配る)

和彦：ふむふむ。ほう(笑)。

春花：ほっほーう(何やら嬉しそう)。

GM：ちなみに今回表のハンドアウトは皆さん共通です。

『あなたの友人である小室栄子と柚木樹里は、二週間前の肝試しから徐々に元気がなくなっていく、栄子に至っては自宅に引きこもってしまっている。あなたは、そんな彼女らのことを心配して何とかしてあげたいと考えている。あなたの使命は「二人を、元の元気な姿に戻す」ことである。』

和彦：あ、共通なんですね。

GM：そうそう、ということで皆さんハンドアウトを確認したところで次のシーンに移りましょうか。

髪の長い女

ホラーで女といえは大体黒髪で髪が長い。けっこうテンプレ。

幽霊なんていない

だけどちょっと、だけどちょっと、僕だって怖いな

ハンドアウト

他のシステムの場合、ハンドアウトを決めてからキャラクターを作ることが多い。

3. 樹里からの報告

肝試しから2週間後、各々夏休みを過ごしていた和彦達の元に樹里から連絡が届く。「少し相談したいことがあるから近くのファミレスに集まってほしい」齋が「何かあったのか」と聞くと、樹里は「会って話したい」と答えるのみで話そうとしない。樹里の様子を不審に思った和彦達は、指定されたファミレスに赴くのであった。

GM(樹里)…全員が集まったことを確認すると、樹里は思いつめた表情で切り出します。「ごめんね、急に呼び出しちゃって」

和彦…それは別にいいけど……大丈夫か？」

GM(樹里)…「うん、実は2日前から栄子と連絡が取れなくなってる……」

和彦…じゃあその場で電話かけてみましょう。

GM…でませんね。

和彦…「でねえな。メールは送ってみたのか？」

GM(樹里)…「メールも送ってるんだけど、返信がないの。この間肝試しだったじゃない？栄子、あれから少し様子がおかしくって……」

それで、二日前から連絡が途切れちゃったから……」

冬香…「風邪でも引いたんじゃないの？それで出れないとか」

GM(樹里)…「だったらいんだけど……。今から栄子の所に行って様子見てこようと思うんだけど、何かあった時のために一緒に行つてもらつてもいいかな？」

和彦…「断る理由もないだろう」

冬香…「もし風邪ひいてるんだつたらお見舞いも兼ねていくべきでしょう」

GM…ちなみに栄子は今一人暮らしです。

春花：「もし体調を崩されているんだとしたら、心配ですね……」

斎：「あの廃病院、だいぶ埃舞つてたからなあ。なにかよくない物でも吸い込んだのかもしれない」

GM：では皆さん栄子の様子を見に行くといったところで、導入フェイズを終了いたします。

一同：はい。

悲劇の始まり【メインフェイズ第一サイクル】

1. 和彦の予感

GM：さて、ではここからはメインフェイズ、調査パートに入っていきます。メインフェイズでは原則GMから時計回りに一人ずつ行動をしていって、全員が一回り行動すると1サイクル、これを3サイクル行います。但し、希望者がいる場合は拳手していただければその方から動いていただいて構いません。また、メインフェイズでは皆さんには情報収集をするなり、【感情】を結ぶなりしていただくわけですが、現状調べられるのは各キャラクターの【秘密】と【榮子】について、そして【樹里】についてです。で、今回は3サイクルということで行動回数が合計12回あるわけですが、今回情報項目の数は皆さんの【秘密】込みで12個あります。まだ調べられない情報に関しては、今後情報項目を開示していくと枝分かれ的に調べられるようになります。ここまでよろしいですか？

一同：はい。

GM：はい、ということで第一サイクル。行動したい方拳手をお願いします。

和彦：はい。(拳手)

春花：お、今回は一人だけか。

和彦：まあ、言うても【目星】持ちに【感情】を結びに行くだけです。というか、俺と【感情】結んどいたほうが【かばう】の対象になるから。

春花：GMさん、感情の書きかえってできたっけ？

GM：書き換えは行えますが、改めてもう一回感情判定を行う必要があります。あと、情報共有は情報を得た人から一段階下の人にしか

25
回復判定

メインフェイズでは、調査判定、感情判定の他に回復判定を行い、自分を含む誰かの生命力が正気度を回復することができる。

情報共有

感情を結んだ相手が情報を得た場合、その情報を自分も見ることが出来る。

発生しませんので。

春花：ああなるほど。了解了解。

GM：では【感情】を結ぶということですが、まずはシーン表を振りましょう。2D6をどうぞ。あ、ちなみに今回用いるシーン表は「本当は怖い現代日本シーン表」です。

和彦：（コロコロ）3です。出目が低い（笑）。

ぴちよん。ぴちよん。ぴちよん。どこからか、水滴が落ちるような音が聞こえてくる。暗く湿ったビルの谷間の前を5人の大学生たちが通り過ぎる。ふと、樹里はその隙間から視線を感じ、振り返る。しかし、細い隙間には何もおらず、まして人が通れるような隙間でもない。そんな樹里の様子に、和彦達は気づいていなかった。

GM：ではシーンは栄子の所に向かう道中ですね。ちなみに誰と【感情】結びます？

和彦：では、冬香さんで。【目星】持ちなんです。

冬香：はい。

和彦：なにで判定しようかな。それっぽい無いんだよなあ。

GM：まあなんでもいいんじゃない。【感情】結ぶって意味で直接イメージしやすいのなら情動とかだろうけど。

春花：喜べよ。

冬香：ハハッ。（裏声）

GM：危ない危ない（汗）。

和彦：「とりあえず、もしなんかあった時はあんまり離れるなよ。なんか少し嫌な予感もするし、俺の手の届く範囲なら守れるからさ」

あ、全員で移動してる途中って体で他の方も出てもいいですか？

春花：「えっ、あ、はい」

シーン表

今回は、シーン表のテキストを元にプレイヤーのやりたいことにある程度沿わせた形の演出をその場で行っている。

ハハッ

夢の国のネズミ。模倣者に敏感で油断すると消される。

ファンブル

絶対的失敗。判定で1のソロ目、つまり2を出すと問答無用で狂気カードを引く。

GM(樹里)：「ちょっと、脅かすのやめてよ……」

和彦：「いやまあ、大丈夫だとは思うけど。樹里も言ってたじゃん。“もしも”のためだよ。万が一にもさ、そういう可能性はつぶしておきたいじゃないか」

GM(樹里)：「うん……」

春花：「何もないと、いいんですけど……」

斎：「ああ、何もないことを祈っておこう」

和彦：よし、これは多分へ愛だ。隣人愛的な？親愛的な？

GM：なるほどね(笑)。では感情判定をどうぞ。

和彦：いきまーす。(コロコロ)……誰か「お守り」ください！

GM：ファンブったー(笑)。ええんやで、そのまま失敗しても。ちなみにファンブルすると狂気カードを一枚引いてもらいます。

和彦：嫌です！斎に「お守り」使ってもらって再判定！(コロコロ)セーフ、セーフ。さすがに初っ端からはあかんって(汗)。

春花：いきなりナニカ見てしまうんですね、わかります。

GM：なんか一昨年もこの流れ見た記憶がありますね(笑)。さて、感情判定に成功したので感情の内容を決定しましょう。和彦君と冬

香さんは1D6を振ってください。

和彦：(コロコロ)5。憧憬か劣等感か。憧憬で。

冬香：(コロコロ)1。共感か不信。共感にします。

和彦：じゃあ大人しい冬香を見てそういうのもいいな。と。俺大人しいころありませんでしたからね。

冬香：ではこちらは守るといふ観点で共感したということ。お姉ちゃんですからね。

GM：OKですかね？では行動終了ということ。

27 狂気カード

インセインでは、恐怖に直面したキャラクターの抱える狂気をカードで表現している。バラクや記憶喪失など内容は様々で、それぞれの発動条件を満たすと表返って発動する。多少の差はあれど大体がキャラクターの不利益となるべくでもない効果。また、狂気カードを全て引ききってしまうと強制的にバッドエンドとなる。今回のシナリオでは、ランダムに選んだ16枚を使用している。

2. 栄子

GM：では次行動したい方？

春花：みんな感情結びに行く流れっぽいし、ここは情報調べとこうか。

GM：わかりました。ではシーン表から。

春花：（コロコロ）6。

栄子宅への道を急ぐ一行。途中、細い路地通っていく。路地は立ち並ぶ民家が影となり、夕方前という時刻を差し引いても少し薄暗い。そんな路地の真中、春花は一瞬背後が気になり振り返った。「どうかした、春花？」姉の冬香が気遣う。春花は一瞬考えるようなそぶりを見せたのち、「いえ、なんでもないです。ごめんなさい。」と言い、そのまま通り過ぎるのであった。

春花：じゃあ、調べますか。とりあえず【栄子】について。へ医学で調べるよ。まだ一回生ですけどありあわせの知識で何とかしてみようと思う。

GM：はい、では判定どうぞ。

春花：いきまーす。（コロコロ）・・・ありあわせの知識ギリギリだったよ（笑）。

GM：はいはい、ではイベントが進行します。

栄子の家に到着した春花達。栄子の家は少し古いアパートといった様相で、栄子はその2階に住んでいる。栄子の部屋の前まで行き、インターホンを鳴らした。しかし、反応はない。すると、樹里は扉を叩き、「栄子、栄子いる？」と呼びかける。それでも、反応はない。

和彦：「電気とかついてそうか？」

GM：メーターは回ってますね。

冬香：「じゃあ中にはいるのかな？」

春花：「もしかしたら、体調崩して寝込んでおられるのかもしれないし……えっと、鍵は……」

GM：鍵は開いてます。扉開けてみますか？

和彦：あ、開いてるんだ。不用心だなあ。

春花：「お邪魔してみましようか」

GM：では扉を開けると、チェーンがかかっています。

和彦：さすがにチェーンはかかっているか。

冬香：覗いてみる？

和彦：俺が覗くわけにはいかねえわ、男だし。

GM：誰が覗く？

冬香&春花：じゃあ。(挙手)

「ここにちわー、北大路です。」チェーンのかかった扉の隙間から冬香と春花が中を覗く。その瞬間、彼女らが目にしたのは扉を挟んで真向いからこちらを凝視する白い女の顔、そして女の血走った眼。「ヒッ」榮子ではない、中にいるはずもない何かと目があつた春花は声にならない悲鳴を上げて反射的に後ろに後ずさり、冬香は自分たちの見た光景を拒絶するかのよう、ドアを勢いよく閉めた。

GM：まずは恐怖判定を行ってもらいましようか。今回は**情景**で。

春花：6で、いきまーす。(コロコロ) あつぶね、ほんとギリギリだなさつきから(汗)。

冬香：こちらは7で。(コロコロ) 成功です。

GM：お二人とも成功ですね。では特に何もなく。春花さんは尻もちをつき、冬香さんは扉を勢いよく閉めただけ。

和彦：では春花ちゃんを助け起こします。「だ、大丈夫？ なにかあつたのか？」



春花：「い、いえ、その……」

冬香：「……あなたも見たの？」

春花：「ね、姉さんも……？」なんかすごいあたふたしながら状況説明かくしか。

斎：「なにか、いたのか？」

冬香：「なんか、よくあるホラー映画のワンシーンを見た気がする……」

GM(樹里)：それを聞いた樹里が何か思い当たるような節があるような様子で冬香に問います。「それって、女の人……？」

一同：(硬直)

冬香：「なんでわかったの」

GM(樹里)：ではそれを聞いた樹里は、栄子宅のドアに駆け寄って激しく叩きながら呼びかけます。「栄子、栄子!!」

冬香：「樹里落ち着いて。痕楽くん、大家さん呼んできて」ついでにチェーン切らなきゃいけないからファイヤーアックスも(笑)。

GM：ファイヤーアックスはないよ、静岡じゃないんだから(笑)。大家は下に行けば呼べます。

斎：「ああ、分かった」と言っって呼びに行きましょう。大家にはほかしつつ説明する感じで。

GM：じゃあ大家は微妙に状況を察したのか、「私も行こう」と言っってついてきてくれます。

和彦：じゃあその間こちらは待機しておきます。

冬香：春花さん心配しておくかな。同じもの見ちゃったわけだし。

GM：ちなみに樹里は何もしなければ来るまで扉叩いて呼びかけ続けます。

春花：じゃあなだめるぐらいはしよう。

GM：では大家と斎くんが到着して、扉を開けますね。ちなみにまた隙間からちらつと覗いたりします？

和彦：じゃあ今度は俺が見ますよ。

春花と冬香に続いて、和彦が中を覗く。今度はなにかと扉越しすぐに目が合うという事はなかった。隙間から見えた栄子の部屋は、扉から廊下が伸びており、突き当りにベッドが横向きに置かれていた。ベッドの上には、栄子が顔をこちらに向けて横たわっていた。和彦は、一瞬栄子が寝ているだけかと考えた。しかし、こちらを向く栄子の眼は見開かれ、口は力なく開かれており一目見て異常であるということが察せられる状況であった。

冬香…寝相悪いなあ。

一同…ちげえよ！（爆笑）

GM…ではここで情報を渡しませう。

「拡散情報：稲葉病院での肝試しから帰って以来、栄子は常に何かにおびえているような様子であった。彼女の部屋は窓が全て目張りで覆われ扉にはチェーンがかけられていた。また、携帯から樹里とのメールの履歴が見つかる。情報項目に「稲葉病院」「稲葉病院の噂」「遺体の状況」が追加される。」

GM…で、和彦くんちょっとここで第六感で判定してみてください。

和彦…（コロコロ）お、成功した。

GM…成功した？じゃあ、ベッドで横たわって顔をこっちに向けている栄子の枕元に黒い髪の毛、髪の毛長い女が立って、栄子をジーツと見つめていることに気がきます。顔や表情は髪に隠れて分かりません。

和彦…「……はっ」

GM…すると、大家が「チェーン切るからそごどいて」と声をかけます。

和彦…「貸して、貸してくださいー」といってペンチひたたくってチェーン切ります。

GM…はい、では扉が開きます。

和彦…入る入る、もう扉押し開けて入る。

春花：「栄子さん……？」

GM：入りましたね？では部屋に入った方は？

和彦：はい。とりあえず私は入ります。

春花：一応。(挙手)

斎：まあ入るんじゃないですかね。私も入ります。

冬香：これはみんな入るんじゃないですかね？

GM：じゃあ臭い〜で判定してください

和彦：臭い〜!?あつ(察し)。

春花：(コロコロ) やったぜ！これでもあんま成功したらダメなやつなんじゃね(笑)。

冬香：(コロコロ) こちらも成功。

GM：失敗した方ー？

和彦&斎：はい。

GM：失敗した方は鼻詰まってたんじゃありませんか。なんかすごい臭うけど、なんの臭いかわからない。で、成功した方。腐乱臭がすごい。成功した方はここで恐怖判定。これは△死△ですかね。

春花：(コロコロ) ……ダメです。

冬香：(コロコロ) むりいー。

GM：失敗した方は狂気カードを引いてください。こちらには見せなくて大丈夫です。ただ、トリガーなんかの自己管理はきっちりしてくださいね。では改めて、ドア開けて中に入るとまず「うっ」ってなります。

和彦：「なんの臭いだこれ……」俺医学生なのに腐乱臭がわからないのか(笑)。

春花：しっかりとしろよ医学生（笑）。

GM：で、見るとベッドの上に栄子が横たわっているのが見えますね。顔は上を向いてる。

和彦：ん？横向いてたんじゃなくて？

GM：うん。さつき扉の隙間から中覗いた時は横向いてた。今見ると上向いてる。で、枕元に女なんて立ってない。

和彦：じゃあ、ベッドに駆け寄る。

春花：じゃあ後ろで言葉に詰まって「う…………この臭い…………」

冬香：こちらもそんな感じ。姉妹揃って察しちゃったよ。

GM：樹里も察したのか、入口入った段階で膝から崩れ落ちます。大家さんはこの光景を見て「け、警察…………！」と言って警察を呼びに行きます。

春花：ですよー。

冬香：「大家さん、救急車も一緒をお願いします」多分手遅れやけど。

GM：改めて状況説明です。まず、窓にはダンボールで完全に目張りがされています。で、机の上には携帯が置かれていますね。ランプがチカチカしています。

和彦：（あれ、さつきは横向いてたような…………？）というのを声に出さず思っています。

春花：「うっ」ってなってトイレ行きます。

斎：「栄子…………。そんな、なんで…………。」といった感じで立ち尽くしています。

和彦：「冬香ちゃんと春花ちゃん、下がっておいで」まあ見りゃわかるからね。

春花：でも腐乱臭のわからない医学生（笑）。

GM：さてここからの行動どうしますか？

携帯

GMは調べて欲しそう
な目でこちらを見てい
る！

和彦…とりあえず状況は調べますよ。つても、【遺体の状況】は項目があるからなあ。まあでも最低限の死体の確認はします。
冬香…こちらは部屋に女の人がいなかったかどうか見まわすかな。

GM…じゃあ冬香さんからいこうか。〈情景〉で判定してみてください。

冬香…(コロコロ) 成功。

GM…栄子以外の人がいた形跡はないです。で、和彦くんは遺体の確認をする、と。どう確認する？

和彦…死亡確認はします。脈をとるとか。

GM…では手首の脈を取ろうとして、手を持ち上げようとすると手首の皮膚がズルッと抜け落ちて腕が落ちる。

和彦…「なっ……!!?」

GM…恐怖判定。これは……〈拷問〉あたりかな。

和彦…拷問!? 拷問か……(コロコロ) いけるやん。

春花…危なかったけどな(笑)。

斎…これ私も見えますかね？

GM…まあ見たんだったら振ってもいいよ。

斎…わーい(笑)。

和彦…一応「見るな!」とは言いますがね。

斎…時すでに遅し(笑)。さすがに見てないわけがない。(コロコロ) あ、成功。

和彦…「斎、大丈夫か……?」

斎…「ああ、大丈夫だ……。」

和彦…「とりあえずなにかかぶせるものその辺にないか?」

35
皮膚が抜ける

おそらく映像にする
と中々にグロテスク。
私も見えますかね
振ってもいいよと言われて
自分から振りに行く
あたり彼は物好きであ
る。

齋：「もうすぐ警察が来る。あまり触らないほうがいいんじゃないか？」

和彦：「ただ、女子陣にはこれを見せるわけにはいかないだろ」シートかなんかかぶせときます。

GM：わかりました。他になんかやる方います？

齋：じゃあ携帯調べてみたいです。

GM：はいはい。じゃあメールの履歴。こんなのが出てきます。(紙を渡す)

ふと、ベッドわきの机の上で光る携帯を見つける齋。齋は携帯を開いてここ数日の樹里と栄子のメールのやり取りを確認する。そこには栄子の怯えた様子が如実に表れていた。そして、「まどのそと」とだけ書かれた未送信のメール。そのメールを開いた時だった。

バン！

目張りされた窓が外側から強く叩かれる。不意の大きな音に驚き、部屋にいた全員がその窓に注視した。

齋：ちよつと、まじでびっくりしたんですけど！

春花：ああ窓に、窓に！

GM：(したり顔) 窓自体は目張りされてるんで、外は見えないです。メールを見てなかった人は窓を叩かれた音だけが聞こえますね。

メール見えた齋さんは物音で恐怖判定してください。

齋：ですよー。(コロコロ) うおつ、だめでした。(狂気カードを引く)

冬香：やつば痕楽くんビビりやつたんや(笑)。

和彦：かいつまんで後で説明してください。見る気はない(笑)。

GM：一応言っておくと、見たら毎回これがあるってわけではないよ。

春花：質の悪いフリーのホラーゲームみたいなのやめろよ(笑)。

齋：ではメールを見る時はそのメールの方に見入ってたんですけど、その音が聞こえて弾かれたように窓の方を向いて固まっています。

強く叩かれる

この時、齋のプレイヤーが最後のメールを読み終わったのを見計らってちよどすぐそばにあったベッドの側面を叩いてそれらしい音を出したため、齋のプレイヤー、を含めた全員が驚いていた。GMはニヤニヤしていた。

フリーのホラーゲーム

ネットで無料配布して一般人が作ったホラーゲーム。無料で同人と侮っていると、凝っているものは意外と怖い。

3 日前

To: 樹里

またいた・・・
やっぱりだんだん近づいてきてる・・・
怖いよ

From: 樹里

大丈夫、多分見間違えか気のせいだよ
こないだの肝試しでちょっと過敏になりすぎてるだけ
気分転換でもしにまた遊びに行こうよ

To: 樹里

だめ、ここから出られない
出たら殺されちゃう
あそこに行って呪われたんだ
みんな殺されてしまう

From: 樹里

そんなこと言っちゃだめだよ！
大体呪いだとか幽霊だとか
そんなものありえないって言ったのは栄子じゃない
大丈夫、栄子も死なないし私たちも死なないよ！

To: 樹里

そうだね、そうだよね・・・
色々あって弱気になってた
変なこと言ってごめんね

2 日前

To: 樹里

玄関の前まで来てる
扉たたいてるひっかいてるなんか言ってる
こわいたすけてすぐに来て

To: 樹里

なんで電話でないの
メール返してよ
なんでもいいから連絡して
扉の前にずっといるはやくたすけにきて

To: 樹里

とびらとまどぜんぶふさいだ
これであいつはいつてこれない
だれでもいいからたすけて
こわいこわいこわいこわいこわいこわいこわいこわい

1 日前

To:

まどのそと

和彦：「い、齋……？」

齋：「あ、ああ。大丈夫だ……。問題ない。」

春花：トイレ行って正解やったな。

GM：あ、そういえばトイレ行ってらんだしたっけ？まあでも今はこつちを続けましょう。

齋：とりあえずかいつまんで説明しましょう。「栄子はある病院に行った後から何かがやってくるという幻覚、のようなものを見ていた

ようなんだ。何かをやってくる、怖いというような感じの」

和彦：「はあ？なんだそりゃ……。それって誰かに連絡とかは」

齋：「ああ、樹里にそのことを訴えていたみたいだ」

和彦：「それはいつの話だ？」

齋：「3日前にやり取りをしていて、2日前からは樹里からの返信が来ていない。で、1日前でメールは止まっている。」つまり昨日だな。

春花：つまり一日で死体が腐乱したってことか？

冬香：「内容はなんて？」

齋：「まどのもと、とただ一言」

GM：こちらはよろしいですかね？では最後春花さんだけやっときましましょうか。トイレ行きましたよね？

春花：はい、トイレ行って一通りマールライオンした後ですね。

変わり果てた栄子の姿と部屋にこもる臭いに当てられ、思わずトイレに駆け込む春花。一通り吐き出し、手を洗おうとして水道のハンドルをひねる。

水が出ない。

マールライオン

シンガポールにある世

界三大がっかりの一つ。

口から水をはいている、

つまりそういうこと。

「あれ？」

さらにひねる。

ゴボ、ゴボ。

水道の水が流れる音がする。手を蛇口の下に持っていく。

ゴボリ。

手に落ちてきたのは、水ではなく大量の髪の毛。

「キヤーツ！」反射的に春花は悲鳴をあげた。その手にはまだ、滑りのひどい長い毛が絡みついていた。

GM：恐怖判定どうぞー。これは手触りですね。

春花：いえーい。(コロコロ)……成功すんじゃないよバカ。(狂気カードを開く)

和彦：えー!?

〔超現実主義〕自分が狂気判定に成功した際に発動

「あなたは怪異を恐れるあまり、その存在を異常なまでに否定している。自分が新たに〔狂気〕を公開するまで、怪異からの攻撃に対して回避判定を行うことができなくなる。」

春花：きつい(汗)。

和彦：いや、まだ大丈夫です。まだ序盤なんで(汗)。

GM：で、外の3人はトイレから悲鳴が聞こえてきます。

冬香：すぐに向かいます。

和彦：俺も行きます。

斎：そりゃ行きますとも。

春花：中ですげえへたり込んでる。

冬香：「どうしたの!？」

和彦：「大丈夫か!？」

春花：「あつ、じゃ、じゃぐ」つていう感じで声震えて蛇口の方指差してる。

和彦：「蛇口?蛇口がどうした?」

GM：あ、今は普通に水出てます。

和彦：「普通に水出てるけど」

春花：「え、水……?でも、た、確かに、人の、その、髪の毛が……!」

GM：うん、指差したその手にもまだ数本絡まつてる。

和彦：「え、髪の毛……?」それ誰の毛とかわかります?髪質似てる子とか。

GM：さあ?そら蛇口から出てきたんだからぬめつとはしてるわな。

冬香：じゃあ冬香さんはその髪の毛を気味悪がりながら春花の手からとろうとする。

和彦：「いや、冬香。お前はいい、俺がやるよ。それに今は普通に水が出てるから洗えばいいだろうし」

冬香：「うん。でももうすぐ警察が来るならもしかしたらこれも証拠とかになるかもしれないでしょ?」

和彦：「そういえば俺ら全員ずつと素手だったな……」。

GM：では長くなりましたのでこの辺りでシーンを切らせていただきます。

一同：はい。

素手

指紋が残るため、警察から余計な疑いをかけられる可能性がある。

3. 柱の影に

GM：では次行動したい方—？

齋：うーん、そうだなあ。今この場に樹里います？

GM：樹里は入口でへたり込んでる。

齋：じゃあちよっと【樹里】にいつてみましょうか、私。

GM：はいはい。ではシーン表振りましょうか。

齋：（コロコロ）2で。

天井でチカチカと点滅していたトイレの灯りが突然、ふっと消える。不意に辺りが暗くなったことに驚く齋たち。和彦が携帯を取り出し灯りとする。「栄子……どうして……」玄関の方からは樹里のすすり泣く声が聞こえてくる。その声を聞いた齋は玄関でへたり込む樹里の元へ歩いて行った。

齋：「樹里、大丈夫かい？」これは調査判定でいいんですかね？

GM：そうだね。何で判定する？

齋：では今どんな感じかっていうのを（第六感）で。

GM：はいはい、わかりました。では判定どうぞ。

齋：（コロコロ）成功です。で、この判定が成功した時に【精神分析】をしてもいいでしょうか？

GM：あー、【精神状態】ってのはつまりその人が持つてる狂気カードの中身の情報で、ぶっちゃけ樹里はデータもってないからやる意味はないよ。

齋：あ、はい。わかりました。

41
データを持っていない

名前以外設定されておらず、データのな中身がないということ。データを持っていないため、生殺与奪はGMに一任される。演出用のエキストラなどが該当する。

GM：ではまあ、精神分析的なことを行ったということ。では情報を渡しませよう。

「拡散情報：肝試しから帰って以来、樹里は視線や悪寒を感じるようになっていた。その方向を見るといつも遠くから女が見ていて、見かけるたびに距離が縮まってきているように感じるのである。また、栄子も似たような状況にあるということ。本人から相談されていた。栄子はすっかり怯えてしまい、廃病院の呪いなどと言っていたが、樹里自身もそれを否定したため、連絡が途絶えるまで励ましていた。」

冬香：ほつほう。

斎：「メールの履歴、見たよ。怖かったね……」

GM(樹里)：「なんのこと……?」

斎：では、ん? っとなつてから「3日前から昨日までのメールの履歴がこの形態に残されてたんだけど……」

樹里：「……知らない。栄子からのメールは3日前で途切れてた」

斎：「え?」

GM：すると、樹里は携帯を渡してくれます。(メールの記録の紙を見せて) 樹里の携帯にはここ(3日前)までのメールが残っています。
ここ(2日前)から先はそもそも樹里に届いてないです。

斎：ああー、はいはい。ではそれを見て固まります。

GM：一応恐怖判定振つとく?」

斎：……振つときましよう。

一同：(笑)

斎：……あ、GM。これって(狂気カードを見せる)

GM：あーうん。狂気判定を行う時やね(苦笑)。

春花：あつ(察し)。

拡散情報

判定が成功すると、全員に公開される情報。通常、情報は判定を行った本人のみが見れるが、全員に知っておいてほしい情報などの場合このようにGMが設定する。

斎…えっと、【盲目】が発動します。(狂気カードを開く)

【盲目】自分が恐怖判定を行った際に発動

「あなたの心は、これ以上怖いものを見るのを拒絶している。自分が新たに【狂気】を公開するまで、調査判定と命中判定にマイナス2の修正が付く。」

和彦…絶望的なんですけど！

GM…では改めて恐怖判定。△混沌△かな、これは。

斎…△混沌△だと……？！……。(コロコロ)うわーっ！(失敗)

春花…でもこれ公開するまで消えないんだよね……。

斎…(狂気カードを引く)まじか……(笑)

GM(樹里)…ではそんなこんなしていると、樹里は半狂乱になります。「もうやだ！あんなところに行つてから……！次は私の番なんだ！」

冬香…やべえよ、やべえよ。樹里さん死んじゃう！

和彦…でも樹里さん行動しないから【感情】結べないやろ。ということは俺は樹里さんを助けられない！

斎…「大丈夫だ、今君は一人じゃないんだから。俺たちがいる」

GM(樹里)…「でも……、でも！」というと樹里は顔を覆って泣いてしまいます。

斎…「……その女の幻覚は今でもまだ見えるのか？」

GM(樹里)…(おもむろにダイスを振る)ふむ。ではですね、樹里は廊下から見える道路を指差します。

斎…そっちの方を見ますけど。

GM…△情景△で判定してみてください。

斎…7か。(コロコロ)あー、いち足りない！

和彦：いやいや、もしかしたら気付かないほうがいいやつかもしれないから。

GM：では、指差した方向には電柱があります。それだけ。

斎：「ん？誰もいないが……」

GM(樹里)：そういうと、樹里は頭抱えて髪を振り乱して、というような感じですね。

斎：とりあえずなだめつつ、これどうしたらいいんだろうと、途方に暮れています。

GM：こんなところでよろしいですかね？

斎：はい。

GM：ではここでこのシーンは切らせていただきます。

4. 肉の臭い

冬香：和彦さんの安定感がすごいな(笑)。

和彦：なんかね、和彦さん普通の人になった(笑)。

GM：あと行動してないのは冬香さんか。どうする？

冬香：とりあえず春花さんと感情結びたいな。

春花：お、いいのよ。

GM：はいはい。とりあえずシーン表。

冬香：(コロコロ) 10。

これ以上この部屋にいるのは精神衛生上良くない、と判断した冬香たちは現場保存の意味合いも含めて全員部屋を出て、玄関の前で警察を待た

ていた。ふと、おいしそうな匂いが漂ってくる。時刻はすでに夕暮れ時。どこか近くの家が夕飯の準備をしているのか、焼いた肉の匂いがする。人間とは嫌な生き物だ。先ほどまで友人の凄惨な死体を見ていたにもかかわらず、おいしそうな肉の匂いを嗅ぐと空腹を感じてしまう自分に嫌気がさしていた。

和彦…こんな時に肉くいたくないなあ。

冬香…とりあえず夕飯の献立考えるかな。

和彦…のんきやなあんだ（笑）！

春花…ここか顔色最悪っすよ、ともすれば半狂乱一歩手前だわ……（笑）。

冬香…いや、春花さん今めっちゃ消耗してるから肉以外で春花さんの好物食べさせてあげようみたいなことを必死で考えてます。

GM…では感情判定をどうぞ。

冬香…どうしよっかな……。>味<かな？>味<で判定します。（コロコロ）成功。

GM…では感情表をどうぞ。

冬香…あゝい。（コロコロ）3、愛情か妬み。じゃあ愛情で。

春花…（コロコロ）1？共感か不信か。とりあえず共感かなあ。

GM…これで全員行動終わりましたかね。ではこれでこのシーンを終了します。

5. まどいのもと 【マスターシーン】

栄子の部屋から外に出て待つこと数分。大家の通報を受けた警察が到着し、捜査を始めた。第一発見者ということもあり、警察からの事情聴取を受ける和彦達。全員が一通り話し終わった後、そろそろ時間も遅いし今日はこの辺で、という刑事の言葉から和彦達はいったん解散する

45 夕飯の献立

この状況で妹のことを考えて夕飯のことを思案する余裕があるあたり彼女は妹思いなのか大物なのか。

マスターシーン

GMが主導で行うシーン。ここでは主にキャラクターの知らないところで起こっていることや、シナリオに重要な演出が行われる。なお、本来はマスターシーンも通常のシーンと同じように行われるが、本リプレイでは小説風に書いている。

こととし、各々の家に帰ることにした。

その日の晩、樹里は自室に籠っていた。栄子の家で解散する時友人たちは皆彼女を心配し、友人宅へ泊ることを提案したが、樹里は一人になりたいとそれを断って自宅へと戻っていたのだ。窓に背を向けて、ベッドの上で毛布をかぶり、まるで何かに怯えるように震える樹里。

ドン………キュキュキュ………ドン………キュキュ………

突然、背後の窓から音がした。窓を叩き、こするような音。その音に、樹里は固まり同時に震えは止まる。

ドン………キュキュキュ………ドン………キュキュ………

カーテンの隙間から見えたのは、長い黒髪の女の姿。血走り、見開かれた女の眼が樹里を凝視していた。樹里は恐怖に固まり、呼吸が荒くなっていく。そして。

ドン！

強く窓を叩かれたことをきかけに、樹里は弾かれたように動きだし言葉にならない悲鳴を上げながらベッドから転げ落ちる。腰が抜けてしまったのか立ち上がることができず、窓から離れたい一心で反対側の扉の方へと後ずさっていく。「やだ………！やだあ………！」恐怖と涙で顔をゆがませ、首を横に振りながら後ずさる。じきに扉に背が当たり、これ以上後退することができなくなってしまった。樹里がゆっくりと背後へ振り向く。

先ほどまで窓の外にいたはずの女が、ガラス戸のついた扉の向こう側からその血走った眼で樹里を凝視していた。

窓をこする音

ここでも、演出としてG
Mがベッドの側面を指で
こすって音を立ててい
た。予想以上にいい音
が出ていた。

迫りくる影【メインフェイズ第二サイクル】

1. 冬香の秘密

GM：さて、それでは第二サイクルに入っていきます。では最初に行動したい方？

和彦：はい。(挙手)

GM：では和彦さんのシーンから。何をします？

和彦：そうだなあ、情報収集かな。

GM：とりあえずシーン表振りしましょうか。

和彦：(コロコロ) 11。

栄子の死が発覚した翌日の朝。近所の赤ん坊だろうか、朝早くにも拘らず甲高い泣き声が響いている。和彦は皆の様子を心配し、全員に連絡を試みた。しかし、樹里からの返事はない。昨日の栄子に引き続き、樹里の連絡途絶。和彦は他の友人達の無事に少しの安堵感を覚えるも、同時に栄子の時と同じ嫌な予感を抱いていた。

和彦：で、冬香について情報収集します。

GM：ほうほう。

和彦：まずは冬香に電話をしましょう。

冬香：「……もしもし？」

和彦：「もしもし、冬香か？」

冬香：「うん、そうだけど。どうしたの？」

和彦：「いや、とりあえず連絡が繋がってよかった。他の人にはまた連絡してみようと思ってるんだけど、まずはとって」

冬香：「そっか。春花も大丈夫だよ」

和彦：「ならよかった」

冬香：「ただ、やっぱりどうしても減入ってしまったってのは思うけどね……」

和彦：「そっか……。じゃあ他のやつにもこれから連絡してみるよ」ということで、冬香の確認が取れた喜びで判定します。

GM：はいはい。

和彦：（コロコロ）成功したっほい。ということでキミの秘密を見せてくれ。

冬香：どうぞー。

「あなたは、肝試しから帰ってきてから視線や悪寒といったものを感じる事が多くなっている。そして、そういう時は必ずその方向を振り向くと、離れたところから見知らぬ女があなたをじっと見つめているのである。しかも、あなたと女の距離は、見かけるたびに少しずつ縮まっている気がする。あなたの本当の使命は『女の正体を暴く』ことである。ショック/全員」

GM：流れとしてはその後変わりないかみたいな話題からその話をするのかな？

冬香：ですかね。カワリナイヨー。

和彦：うわっ、うわっ（苦笑）。

冬香：よかったのか、ホイホイ抜いちまって（笑）？

和彦：そうだな。（キャラクターシートに手を伸ばす）

春花：お、ショックウー！

斎：正気度減ったー（笑）！そこ地雷じゃないですか（笑）

和彦：そうですね、じゃあそういう話を聞いたことにしましょう。

ショック

衝撃的なことを知ったことで、正気度が1点下がる。「全員」と書かれているのはショックを受ける条件で、場合によっては正気度が減らないこともある。

冬香…「あまり人に言えることではないんだけど、実は……」というような感じで。

春花…一応人に聞かせられる話ではあるんだな。

和彦…「そ、そうか……。まあ、あれだ。安心しろ、俺が絶対守ってやるから」

冬香…「……ま、期待しないで待ってるよ」

和彦…「絶対守ってやるから……」まあ、他の人も守るんですけどね！

春花…何を待ってるんですかねえ（ニヤニヤ）

冬香…そうだね、と言いながらあんまり期待はしてない。

和彦…えーひどい（笑）。

一同…（笑）

GM…ではそんな感じでよろしいですかね？

和彦…あ、はい。

2. 次のニュースです

GM…次行動したい方ー？

斎…んー、これ全員に生存確認はとったんだよね？

和彦…とりあえず全員にやったっぽい。樹里は出なかつたんですよね？

GM…そうですね、樹里は反応ありません。

和彦…じゃあ樹里が応答ないっていうのは全員に伝えておく。

齋：では全員に連絡取って、もう一回昨日みたいにファミレスか喫茶店に集まりましょうか。

GM：ほいほい。で、行動は誰がする？

齋：私ちよつといいかな？（挙手）そろそろ誰かと感情結んどきたいんだよなあ。

GM：感情結ぶのはいいけど、結ぶ度に手に入る情報は減るがそれはよろしいのか？

齋：んー……。でもなあ……。今私調査判定にマイナス修正入ってるんですよね（笑）。

和彦：感情ならなんもないね。

GM：現状調べられる情報がPC1, 3, 4がまだで、あとは【病院】、【病院の噂】、【遺体の状況】か。で、行動できる回数が齋さん入
れて7回ですね。

冬香：痕楽くんが自分と結んでくれれば自分が得た情報は全部渡せるんだよなあ。

和彦：なんか春花さんのキャラシーすごいことになってる（笑）。

齋：全く分からないっていうのもきついしなあ。

春花：とりあえず俺は情報調べることは確定かなあ。

冬香：あ、私も情報収集確定ですね。

GM：じゃあ悩んでるんだつたらそつち先にやります？感情結ぶなら今やつといたほうがいいとは思うけど。

齋：うーん……。よし、春花と結びにいきます。

春花：ここ？別にいいけど。

齋：樹里の状況とか聞きました、正直その2人はまだ大丈夫かなという印象を受けます。しかしちよつとこちらの方は不安なので様

子見に行こうと思うので感情を結びます。

春花：普通にゲッソリしてると思うよ。

春花さんのキャラシー

この時春花のプレイヤー
は自分のキャラクターシ
ートを赤ペンで塗り、血
痕を描いていた。

GM：とりあえずシーン表まだなんでどうぞ。

斎：おつ、忘れてた。(コロコロ) 5。

お互いを心配し、喫茶店で昨日のように集まる斎たち。しかしそこに樹里の姿はない。喫茶店にあるテレビからは栄子のニュースが早くも報道されてきた。店内に響くキャスターの声が彼らに栄子が死んだという事実をより一層リアルに感じさせていた。

斎：「みんな、大丈夫だった？」

和彦：「ああ、俺は大丈夫だが……」

春花：「私も、特に変わりなく」

斎：「春花ちゃん、顔色だいぶ悪いけど……」

春花：「い、いえ。少しだけ食欲がないぐらいで……昨日の、今日ですからね……」

斎：「……でも、そんな時こそ元気出さなきゃ」といつてこちらは無理して笑います。ということでお笑いをお願いします。

春花：がんばれー。

斎：いけつ(コロコロ)よし、成功。

GM：では感情表を。1Dどうぞ。

春花：(コロコロ) 2。

斎：(コロコロ) こちらは1。

GM：えー、1は共感もしくは不信。2は友情もしくは怒り。

春花：友情で。

斎：共感が不信でしたっけ。じゃあ共感で。で、私の手番は終了かな。

午前のワイドショー「徳だね！」の司会者。常にカツラ疑惑がささやかれている。

3. 稲葉病院の噂

GM：次の方？

冬香：はい。(挙手) じゃあ【噂】調べますー。

GM：うい。じゃあシーン表どうぞ。

冬香：はい。(コロコロ) 9。

4人の安否を確認し、そのまま喫茶店で話し合う。ふと時計を見るとすでに昼を回っていた。じきに太陽は沈み、空は血のように赤く染まる。そしてまた、夜が来る。

冬香：うーん、じゃあ噂話を前に何回か聞いてて、それを整理するという感じで。ということでも整理。(コロコロ) 成功。

GM：はいはい。では情報をお渡ししましょう。

「拡散情報：稲葉病院で火災が発生する前、病院にカシマサヤという名の女性が運ばれてきた。サヤは全身に重度の熱傷を負っており、当時の医師も最初はどうかかわからないほどであったという。医師の懸命の努力によりサヤは何とか一命は取り留めるも、やけどを負う以前は相当な美人であったサヤは変わり果ててしまった自分の姿に絶望し、また、こんな姿の自分を生きながらえさせた病院を強く憎み、激しく呪った。その結果、サヤの憎しみは現実には病院を燃やし自身もその中で死んでいった。事実、出火の原因は突き止められていないものの、出火場所は当時サヤが入院していたとされる病室となっている。それ以降、サヤは未だに廃墟と化した病院内をさまよいつつ、呪いを振りまき続けているという。そして、サヤから呪いを受けてしまった者はサヤを振り切り、逃げ切らなければ呪い殺されてしまうという。情報項目に「カシマサヤ」が追加される。」

冬香：お、新しい情報が調べられるようになった。

和彦…あとは【病院】調べるとリンクが出そうだが……。【遺体】は、いいかなあ。

春花…どれが地雷かね？

和彦…【病院】はほぼ確定でなんかあるでしょう。いや、ないのか……？

冬香…そういえばこんな噂あったよ、といった感じで振りましょう。

和彦…「カシマサヤ、か。聞いたことないな……。まあ、もう少し調べてみよう」

斎…「人の恨みで出火するなんてありえない。きっとライターかなにかを持ち込んで火をつけたんだろう」

GM…そのあたりでよろしいですかね？

一同…はい。

GM…ではこのシーンを終了します。

4. カシマサヤ

GM…では第二サイクル最後ですかね。春花さんどうしましょう？

春花…調べにいくのもいいし、最終的に和彦さんと感情結びに行きたいんだよねえ、個人的には。

和彦…ただ、私的にはどっちかっていうと最終ターンの方がいいですね。あー、でもどっちにしろ流れるから一緒か。

春花…じゃあいいよ。それだったら今は調べにいくよ。

GM…とりあえずシーン表振りしましょうか。

春花…とう！（コロコロ）8。

稲葉病院にまつわる噂、そして『カシマサヤ』。新たな情報を聞き、春花は思いつめた表情になる。

突然、4人のいる喫茶店に携帯の着信音が響く。突然の大きな音に驚き、ビクッと身体を震わせる春花。音の発信源はどうかやら春花の携帯のよう、春花が携帯を取り出し、画面を見ると相手は非通知であった。

「はい、北大路ですが……」

無言。

「あの、もしもし……？」その瞬間。

テーブルクロスの下から、誰かに足を掴まれた。

「っ！」悲鳴にならない声を上げ、勢いよく椅子から立ち上がる春花。その足首には手形こそついていなかったものの未だ残る掴まれた時の感覚、そして、よく見なければ気付かないほどのごく微量の煤が残されていた。

GM…とりあえず恐怖判定振りましょつか(笑)。

春花…うわああああああ(爆笑)。

GM…へ痛みで判定をどうぞ。

春花…1, 2, 3, 4, 5。10か。いきまーす、どーん(コロコロ)……うん。

GM…どうぞー。(狂気カードを渡す)

和彦…うわあ、なんかもうみんな死にそう(笑)。

GM…はい、では続きを。ちょうど春花さんが立ち上がったところですね。周囲から見ると春花さんが突然立ち上がったように見えます。

和彦…「ど、どうした、春花ちゃん？」

春花…「い、今、誰かが、あ、あし、足を……！」っていつて電話を見ますけど。

GM…電話は切れてます。ツーツーという音が聞こえるだけ。

春花……もうやだ(笑)。

和彦……「だ、大丈夫か？」

春花……「い、いえ……その……」気のせいとは言えない今日この頃。

斎……「まあ、状況が状況だからね。不安になるのは仕方がない」

春花……「誰からだっただんでしょう、そもそも携帯はいつもマナーモードにしてるはずなんですけど……」というのをボソッと。ビビリ
ゲージが上がっていく。

GM……さて、行動宣言はまだですがどうしましょう？

春花……どっちいくか、【病院】か【サヤ】か……

冬香……なんかでも【サヤ】はショックありそうですね(笑)。

春花……やったあ、じゃあそっちいこ(笑)。

一同……(爆笑)

春花……ということで【カシマサヤ】について調べます(笑)。

GM……はい。どう調べましょう？

春花……んー……。過去の文献とかニュースペーパー的なもので調べるか？

冬香……それなら図書館とかで調べられそうですね。

春花……へメディアなんだっただら目標値7なんだよな……。地方紙とかそのあたりから調べていけます？

GM……どうぞどうぞ。

春花……やったあ、とう。(コロコロ、失敗)……。

和彦……好奇心の範囲内でしたら生命力か正気度1点減らして振り直してきますよ。

春花…まじで？やったあ、めっちゃ減らす。では正気度1点減らします。

斎…感情修正乗せときます？

春花…もつたない気もするけど『いちたりない』を撃退できるならなあ……。ただ大丈夫だつて。そんな、まさか失敗するなんて

へへッ。

一同…(笑)

春花…とりあえず振りやすね。(コロコロ、成功) よーしよしよし。

GM…はい、ではカシマサヤについて。

「拡散情報：故人。過去の稲葉病院で起きた火事の際に巻き込まれて死亡。生前、全身に重度の熱傷を負った状態で稲葉病院に運び込まれている。辛うじて残っている過去の資料などからは“発見者の証言や状況から焼身自殺を図った可能性あり”との記述がある。また、当時の彼女の
交際相手も稲葉病院での火災で死亡している。情報項目に『カシマサヤの交際相手』が追加される」

和彦…拡散多いなあ。

GM…で、ここでGMはおもむろにこれをPC4に渡します。(折りたたんだ紙片をPC4に渡す)

和彦…嫌な予感的中してるじゃねえかこれ！

春花…(紙片を開いて黙読)……これはまずいですね。

斎…あれって抜けます？

GM…そうですね、あれは簡単にいうとPC4の【秘密】の追加情報です。

和彦…じゃあPC4の【秘密】抜いたら両方とも出るんですね。

GM…ではまあ、カシマサヤについて地方紙なんかを調べて、情報が出てきて、というところですね。

春花…すごい思いつめた表情してるわ。

まさか失敗するなんて

もしかして↓フラグ

和彦：こつちも多分考え込んで気づかないかなあ。

春花：じゃあロールプレイってほどではないけど、この情報抜いてからしばらく黙りこくってるわ。

冬香：「どうした春花。腹でも痛いのか？」

春花：（はっと我に返ったような表情をして）「えっ、あ、ええつと……今、何か仰いました？」

冬香：「いや……、大丈夫かなにやら思いつめたような表情をしていたようだが……」

春花：「あついえ、さつき調べたことなんですけど……」と言って公開情報をもっかい言うかな。

和彦：「この恋人つてのもなんかありそうだな」

齋：「自殺か。痴情のもつれてやつかな？」

和彦：「わからん。正直、女性の考えてることは僕にはわからん」

齋：「そうか？俺も男性なわけだが」

冬香：「まあ色々あるんだよ」

齋：「だがもしこれが本当なら、焼身自殺しようとして、生き延びてそれがまた恨みを残している、と。面倒な話だ」

GM：ではそんなものでよろしいですかね？

和彦：あ、サイクル終わるんならその前に樹里の家行つときたいんですけど。

GM：いいよ、じゃあこのシーン内で処理しちゃいましょう。

和彦：「というか、樹里は結局連絡つかなかったな」

齋：「行ってみるか？誰かあいつの家知ってる？」

冬香：「私達知ってるけど」

春花：「たしか過去に一度遊びに行かせて頂いたことが」

冬香：「じゃあ、行ってみる？」

斎：「栄子の件もあるしな」

GM：では樹里は実家暮らしとしましょう。樹里の家に行ってチャイムを鳴らしますと、母親が出てきますね。

和彦：「あ、えっと樹里さんと同じサークルの小泉と言います。樹里さんは今日は……？」

GM(樹里母)：「樹里でしたら、今朝早くにいつのまにか出て行ったみたいですけど……」

和彦：「出て行った？」

GM(樹里母)：「ええ。起こしに行こうと思ったらいなくなっていたので」

冬香：「どこに行くとかは聞いてないんですか？」

GM(樹里母)：「さあ……。昨日の様子から私も少し心配してるんだけど……皆さんと一緒にではないの？」

和彦：「いや、私たちは携帯の方で連絡がつかなくなったので……自室に籠ってるのかなとも思ってたんですがそうじゃないんですか？」

GM(樹里母)：「いえ……」

和彦：「あいつどこに出かけたんだ……。あの状態で……？」

斎：その話は後だな、というのをアイコンタクトで。

和彦：「あ、すいません。帰ってきたらこの番号に連絡するよう伝えてもらえますか？」

GM(樹里母)：「ええ、わかったわ」

和彦：「お願いします」

GM：こんな感じですよしいですかね？では第二サイクルを終了させていただきます。

一同：はい。

5. 煤 【マスターシーン】

時刻は深夜二時。今晚は全員集まって一夜を明かすということを決めた冬香たちは、一人暮らしをしている和彦宅に集まっていた。最初こそ皆怖くて眠れないだろうと考えていたものの、この時間ともなると日中の疲れから和彦はうつらうつらと舟を漕ぎ、冬香は寝入ってしまった春花に毛布を掛けていた。そんな中。

ドン

なにかが窓を叩く音。起きている者は驚き、皆一斉に窓へと注意を向ける。

ドン……キュキュキュ……ドン……キュ……キュキュ……

黒髪の、髪が長い女が窓の外に立ち、カーテンの隙間から室内を覗きながらしきりに窓を叩いていた。窓を挟みすぐ近くまで来ているカシマサヤという常識外の存在。和彦達は目の前にいる存在に凍りついた。しかし、窓を叩いているということはそれ以上中に入ってくることはできないらしい。そのことに心のどこかで安堵しているのか、だれもパニックを起こすことはなかった。なかでも冷静だった和彦は、立ち上がり窓へと歩み寄ると勢いよくカーテンをめくり、窓を開けて窓の外の存在を確かめようとした。そのはずだった。

しかし、そこにいたはずの存在は跡形もなく消えていた。残されていたのはペランダの黒い足跡のような煤と、窓にべったりとつけられた赤い、こすったような手形。「二人を追いかけたのはあいつか……」後ろから斎が和彦に声をかける。和彦は「ああ、そうだろうな」と言いながら窓を閉め、振り返った。その時視界に移ったのは、異様な存在を感じて硬直する冬香と、冬香に張りつくように寄り添う黒髪の女。次の瞬間、和彦は冬香の顔の横にいる女に殴りかかっていた。しかし、その拳は空を切る。同時に、女が消えて冷たい存在感から解放された冬香は大きく息を吐いた。

「冬香、大丈夫か!」女が消えたことを確認した和彦が冬香に寄り添う。「え、ええ……」息を荒げながらそう答える冬香の背中には掌の形をした煤が残されていた。

助けを呼ぶ声【メインフェイズ第三サイクル】

1. 変化

女が消え、それと同時に部屋に立ち込めていた冷たく重苦しい空気も消えた。しかし、先ほどまでこの部屋に栄子の死や樹里の失踪に関わっていると思われる不気味ななにかがいたという事実は和彦達を沈黙させていた。そんな中、一つの音が静寂を断ち切る。

prrrrrrrrr

和彦の携帯であった。突然の着信音に驚く一同。どうやらメールを受信したようで、和彦はそれを確認する。「おい、これ……！」和彦が青ざめながら開いたメールを見せる。それは、失踪した樹里からのメールであった。メールには『たすけて 稲葉病院に閉じ込められている 女が病院の中を歩き回っていて出られない 助けて』と書かれており、文面からは必死さが如実に表れていた。「あいつ病院にいるのか!」メールを見た齋が驚いたように言う。冬香も「病院って、あそこだよ。この間肝試しに行ったあの……」と表情にはあまり出さないものの驚いた様子を見せている。その様子を確認した和彦は「あそこ行くにしても、まずは準備しないと。焦って行ったら何ががあるかわからないし、それにこんな暗い中行って事故るわけにもいかないしな」とまとめ、ひとまず夜が明けるのを待つのだった。

GM：ということで、ここから第三サイクルに入っていきたいと思います。行動したい方？

春花&和彦&齋：はい。(挙手)

GM：複数いらっしゃる場合はGMから時計回りになりますので春花さんからどうぞ。

春花：ういっす。じゃあ今回回避判定できないんで和彦に感情結びに行きます。つてことでシーン表ー。(コロコロ) 6。

樹里からのメールが届いてから数時間が経過し、時刻は夜明け頃。外では日が昇りはじめ、室内が少しずつ照らされてゆく。同時に、太陽はベランダと窓に残された痕跡をも照らしだし、昨夜の出来事が夢ではないことを実感させてくれていた。

斎：もうやだこんなお泊り会。

一同：（笑）

春花：では、多分みんなこれぐらいの時間には夜中のことで疲れ果てて寝てしまつてると思いますが、その間一人頭から毛布かぶつてたんで、もそもそ起きてきて和彦に話しかけましょう。

和彦：じゃあこちらも一応起きてはいます。うつらうつらしてますけど。

春花：ふむ。じゃあまずは冷蔵庫を漁つて適当に飲み物を持っていこう。

和彦：俺の家（笑）。

春花：じゃあ水もつてく。

和彦：「あ、おはよう。起きたのか」

春花：「あ、おはようございます」そうですね、妙に落ち着いた感じでいきましようか。

和彦：「（あくびをしながら）ねむ……今何時だ。ん、どうした？」

春花：「いえ、そろそろ日が明けるころですけど大丈夫ですか？」

和彦：「ん、まあ大丈夫。なんとかやるさ」

春花：「このあと、病院行くんですよね？」

和彦：「そりゃあな」

春花：「……こんなこというのもあれかもしれませんが、危険なところ、なんですよね」

和彦：「まあ、なあ。でも、樹里が助けを求めてるんだし行くしかないだろ。もし怖いんなら春花は待っててくれてもいい」

春花：少し考えるような素振りをした後「いえ、皆さんも行かれますし……。和彦さんも行かれるんですよね？」

和彦：「ああ」

春花：「だったら、私も行きます。それに……行かなきゃ、ダメ、ですからね」

和彦：「だな。樹里を助けないと」

春花：「それに、何かあっても和彦さんが守ってくれるんですって」

和彦：「おうよ。みんなを守るのが俺の役目、ってね」

春花：「おっと、じゃあそれ言われた瞬間一瞬だけ表情が消える」

和彦：「お？」

春花：「で、すぐ元に戻って」でも、あまり無茶はしないでくださいね。皆さん心配しますから」

和彦：「死なない程度にな」

春花：「じゃあそろそろ判定しようか」

GM：「なにて判定します？」

和彦：「なんか嫌な予感するんですけど（笑）」

春花：「もう（愛）でよくね」

和彦：「もーやだー！勘弁してくださいよー！！（笑）」

春花：「（愛）結ぼうやあ。（コロコロ）いけたで（笑）」

和彦：「おお、もう……（コロコロ、3）うわーっ！（頭抱える）」

GM：「愛情か妬みです（笑）」

和彦：「うう……マイナス感情にするとかばえないんで愛情で」

春花：「すまん（笑）。こちらは（コロコロ、5）憧憬で」

和彦：「あかんで、あかんでこれえ……」

GM：ほら、親愛の情つてのもあるから、なうとりあえずシーンとしてはこんな感じでよろしいですかね？
春花：はい。

GM：ではこのシーンを終了します。

2. 春花

GM：次行動したい方—？

和彦：はい！（挙手）

GM：お、なんか調べる？

和彦：そこ！（春花を指差す）

春花：おう、なんや。

GM：とりあえずまずはシーン表どうぞ。

和彦：（コロコロ）5。

春花と話しながら和彦はテレビをつける。テレビでは朝のニュースがやっており、さわやかな男性アナウンサーが挨拶をしていた。いつもと変わらなないテレビの向こう側が日常を感じさせてくれた。

和彦：時間としては多分さっきのシーンの直後でしょうね。なんでそのまま続けます。「ところで、春花ちゃんはよく寝れた？」

春花：「よくわからないですね。多分寝れたんだと思いますけどあんまり疲れが取れた感じはしないかな（苦笑）」

和彦：「そっか。まあ、こんな狭い部屋で4人もいたらな。……春花ちゃん、色々あったからか昨日あたりから様子がおかしく見えてさ。疲れっちゃってるんじゃないかと思って」

春花：「心配していただけるのはうれしいです。ご迷惑をおかけするわけにもいきませんし、それにも少し私にはやらないといけな
いことがある気がするのです」

和彦：「やらないといけないことって、なに？」

春花：「振るんじやないの？」

和彦：「振ります（笑）。判定は（愛）で。（コロコロ）やっただぜ。」

GM：「はい。では情報を渡してください。」

「あなたは、PCC①に対して好意を抱いている。しかし、あなたはPCC①がPCC②に向けている視線の意味になんとも気づいていない。それ故に肝
試しから帰って以来、あなたはPCC①に対して色目を使っているPCC②のことを疎ましく感じ、PCC①を守ってあげなければならぬと密かに考
えるようになった。あなたの本当の使命は『PCC②を殺し、PCC①から“愛情”の感情を得る』ことである。また、あなたは『フライズ：???』を持
っており、この秘密を見た者は（愛）で狂気判定を行う。ショック：全員」

「カシマサヤの情報が出力された際、以下の文章をPCC④の秘密に追加する。

あなたはあの日、カシマサヤに魅入られてしまった。しかし、あなたはそのことについて気付いていない。あなたは、『フライズ：カシマサヤ』を持って
いる。また、この秘密を見た者は『フライズ：カシマサヤ』に対して情報収集を行うことが可能となる。」

春花：「両方だよな？（秘密の書かれた紙片を渡す）」

GM：「そうですね。」

和彦：「（黙読）……うえっ!? えーっ……。」

冬香：「感情結んでるんでこちらにも回ってきますよね？」

GM：「ですね。和彦さんと感情結んでる人は情報共有が発生して見ることができます。」

和彦：「とりあえずこれが減るだろ。（正気度を1点減らす）」

フライズ

シナリオ上設定された
特殊なアイテムや存
在。何かの鍵であつた
り、場合によってはキ
ャクター同士で奪い合
うことにもなる。

冬香…ふむ。(正気度を1点減らす)

齋…情報弱者は厳しいっすね(苦笑)。

和彦…そこは知らなくても大丈夫じゃないかな。俺は最重要だったわ(汗)。というか俺も知りたくなかったよ!

齋…いや知りたいんだけど(笑)。

GM…とりあえずやること(狂気判定)だけはやっとしてくださいね。

和彦…ああ、はい。(コロコロ)セーフ!

冬香…私も見たんで。(コロコロ)おおう、ファンブル。

和彦…そこは『お守り』使って。

冬香…ありがとう。(コロコロ)よし、成功。

齋…これって見れないですよね?

GM…情報もらった人から見せてもらえばいいよ。

和彦…見たいの?

齋…(とてもいい声で)すごく見たい。

一同…(笑)

春花…いい声だったな今の(笑)。

和彦…じゃあいいよ。さっき『お守り』使ってもらったし渡そう。(情報を渡す)もうこれ意味わかんねえよお……

春花…ただ、こっちは今このシーンにキミしか出ていない体でしゃべらせてもらう。

GM…冬香さんと齋さんは盗み聞きみたいな状態ですね。

齋…というかこれも公開情報ですよね?

GM：そりゃね。ということ情報ペーパー開示。

和彦：というか俺愛情もってるじゃねえかよ！

春花：俺あの瞬間奇跡だと思ったわ（笑）。

斎：あ、狂気判定やつとかないと。（コロコロ）セーブ、なんですけどショックで正気度下がったんでこれが発動します。（狂気カードを開く）

〔記憶喪失〕自分の狂気度が減少した時に発動

「あなたは、忘れてたくて仕方ない辛い経験をしたようだ。自分の〔秘密〕と自分の〔居所〕以外の〔情報〕をすべて失う」

斎：俺記憶喪失になります（笑）。

和彦：は!?!（笑）

GM：つまり、今見たこれも忘れた（笑）。

斎：ではそれを聞いて内心「そんな!?!」ってなりますけど、すぐに「何か夢を見ていたようだ」ってなりません。

一同：（爆笑）

「やらないといけないことって、なに？」和彦に聞かれた春花は内に秘めた自らの〔秘密〕を淡々と語りだす。ただ事実のみを述べるかのように。そして、最後に屈託のない笑みを浮かべて言う。

「だから、私は姉さんを消さなくちゃならないんです」

「は……？なにいつてんだ……？」春花の言葉を聞いた和彦は戸惑い、混乱していた。しかし、これだけはわかる。カシマサヤとやらの影響かは知らないが、今の彼女は正気ではない。

「大丈夫です。いいんですよ、和彦さんは何も考えなくて。全てなるようになるだけですもの」

優しい声色でそう告げる春花の眼は煤けたようにひびく濁っていた。

奇跡

和彦からの愛情が出た瞬間、GMも内心ほくそ笑んでいた。



3. 写真

GM：さて、それでは次のシーン移りましょう。行動したい方！

齋：あ、じゃあ次私いいですか。

GM：ほいほい。

齋：つて言っても私PC④の秘密忘れちゃったんで調べられないんですよね。

和彦：てか、これ齋は全部忘れちゃってるから何も調べられないんじゃないかね？

GM：あー、そこはあとで誰かに聞いたつてことにすれば別にいいよ。

齋：残りの手番が私と冬香さんであと2回。で、調べなきゃいけない情報が？

和彦：プライズは確定で調べるとして、あとは【病院】か【交際相手】のどっちかやな。

GM：あとは齋くんの【秘密】も残ってるね。

春花：【秘密】抜きに行ってもいいんじゃないかね（笑）。そこのはまだ誰もわかってないし。

齋：うーん、とりあえず自分で自分の秘密はばらせないので【交際相手】行ってみます。

GM：はい。

齋：では、なんか妙に吹っ切れた様子で「和彦、パソコンを貸してくれ」

和彦：「ああ、別にいいけど。なんか調べるのか？」

齋：「ああいや、あのカシマサヤとやらの交際相手について調べておきたいんだ」

GM：あ、待った。シーン表振ってないんで振ってください。

齋：おっと。(コロコロ)4です。

春花の語った己の内面。衝撃的なその【秘密】を盗み聞いてしまった齋は、そのショックからか今直面している現状に関する記憶が抜け落ちてしまっていた。そんな齋の異変に気付いた和彦は、齋に春花のことを伏せた上で再び自分たちの置かれた現状を伝える。状況を再認識した齋は、未だ得られていない情報を調べるために和彦のノートパソコンを開く。ふと、電源の入っていない真つ暗なディスプレイを見ると一瞬自分ではない誰かの姿が見えた。齋には、それが髪をふり乱した春花の姿に見え、背後を振り向く。しかし、そこに春花はいない。記憶が抜け落ちてても頭のどこかには残っているのか、背筋に凍りつくような悪寒を感じた齋は、もう一度毛布をかぶり寝ている春花の姿を見ているのだった。

和彦：「どうした、齋？」

齋：「ああ、いや。疲れているようだ。気にしないでいい」さあ調べよう。当時発生した火災事件に関してインターネットを使って効率よく調べます。ということでご効率で。

GM：はいはい。どうぞー。

齋：あ、【記憶喪失】を公開したので【盲目】は消えました。(コロコロ)危ない、【地位】で調査判定に＋1の修正込みで成功です。

GM：はいはい。では【カシマサヤの交際相手】について。これは拡散情報です。

「拡散情報：故人。熱傷を負ったカシマサヤの発見者。九死に一生を得て入院中だったカシマサヤの面会で稲葉病院を訪れていた際に火災で死亡。当時、カシマサヤと交際していたが別の女性と親しんでいる場面の目撃証言があった。尚、その女性は小室栄子の状況と酷似した状況で死亡が確認されている。」

GM：齋くんがそうやって調べてるとその情報と一緒に一枚の画像、というか写真が出てきます。写真には二人の男女が仲よさげに写っています。で、写真の注釈として「当時のカシマサヤとその交際相手」と書かれています。で、あなたがその写真を見た時、写真の中の女性、カシマサヤがどこことなく春花さんに似ているような感じがします。加えて、交際相手の方はどこことなく和彦さんに似ているように感じますね。

齋：なるほど。しかし私は、今起こってる人間関係のドロドロを忘れてしまってるんで「お、なんか似てるな。こういう偶然もあるんだな」と思いつつ、調べた情報をみんなに伝えましょう。

冬香：「おや、確かに似てますね」

和彦：「見せてくれ」

齋：「どうやら男を巡って女二人の醜い争いがあつたようだ。まったく痴情のもつれつてのは怖いな。アツハツハ」

一同：（爆笑）

和彦：お前の中ではそうなんだろうな（涙目）。

春花：では起きてきて静かにニコツと笑います。「ええ、まったく。恐ろしいものですね」

4. サヤの呪い

GM：では齋さんのシーン終わりました、最後冬香さんの行動ですね。

冬香：じゃあもうここまで来たらプライズ調べましょうか。

GM：とりあえずシーン表を振りましょうか。

冬香：（コロコロ）6。

GM：あ、もうそれ飽きたしいい加減描写のネタ切れてきたから振りなおして（笑）。

冬香：ではもう一度。（コロコロ）9。

時が経つのは速いもので、調べ物や準備を行っていると気が付けば夕暮れ時になっていた。空は夕日に照らされて、血のように赤く染まっている。そういえば2日前、変わり果てた栄子を部屋に残し、家の前で警察を待っていた時もこんな空だった。栄子は死に、樹里は失踪し、そして妹の春

ネタ切れた

シーン描写はその場で即興で行っているため、さすがに三度も同じような場面となると違いを出せなくなってしまう。

花は正気を失ってしまっている。どうしてこんなことになってしまったのだろう。あの時肝試しなど行っていなければ。後悔しても過去へは戻れず、時は無情にも過ぎていく。そしてまた、夜が来る。

居所⁷¹

冬香：これちよつと樹里ほつたらかしすぎたな（汗）。とりあえずどう調べよう。

春花：ご自由にどうぞ。

冬香：今の春花さん怖いなあ。

一同：（笑）

春花：え、なに、このタイミングで殴りにでもくんの？（笑）

冬香：いや、【居所】知らないんで無理です。んー、もうわかんないから第六感で。

和彦：感情修正いれる？

冬香：いやあ、なくても大丈夫じゃないですかね。目標値6ですし。

和彦：ただキミはもう振り直しできんのやで？「お守り」ないし。

春花：「お守り」2つあるなあ。

和彦：いや、この状況で春花さんは使わんでしよう。いや、生命力1点減らして感情修正いれます。

冬香：では目標値5で。（コロコロ）危ないけど成功。

GM：ではプライズの情報をお渡ししましょう。（情報の書かれた紙片を渡す）

このプライズはカシマサヤの呪いの一つの形である。このプライズを得た者は、好意を寄せている相手の周囲にいる異性を排除しなければならないという方向に秘密が書き換えられ、また、サヤが呪いの対象を呪い殺す上での中継アンテナのような役割を果たす。この効果はプライズを破棄することで失われる。ただし、このプライズはクライマックスフェイズにおける戦闘でカシマサヤが戦闘から脱落した時点で、このプライズの所有者は即座に破棄することができるようになる。」

キャラクターの【秘密】以外の情報の一つが【居所】である。本来、隠棲での戦闘は基本的にクライマックスに発生するものだが、キャラクターの居所を知っているとそのキャラクターに戦闘を仕掛けることができる。ただし、この居所に関する情報は調査判定で手に入れる必要がある。

冬香…ふむふむ。

春花…見たら見せてね。あ、でも知りたくないな、逆に。

和彦…（紙片を受け取って読む）……はあ。

春花…（紙片を受け取って読む）はあ、はあ。そう簡単に終わると思うなよ。いやあ、楽しくなってきたなあ。

斎…現状これ血を見るのほぼ確定ですよ？

冬香…もう見てるじゃないですか、栄子さんの。

和彦…さて、樹里を助けにしよう！

斎…あれ!? 結局私だけ何も知らない!（笑）

和彦…ショックとかはないな、よし。ショックないの全部あげる。

春花…見る? 見ちゃう? 全然いいよ? もつかいショックと狂気判定しとく?

斎…あ、三角関係とかその辺のはいいです。

和彦…あ、俺今のうちに「鎮痛剤」使っときます。生命力1点回復します。

GM…OKですかね? ではこの後の皆さんの行動をお聞きます。どうしますか?

和彦…樹里を助けに行きます。

春花…病院に行きましょう?

GM…はい、ではこれにて第三サイクルを終了して、クライマックスフェイズに入っていきます。

もつかいショックと狂気

判定

基本的に情報に書かれたショックや狂気判定は同じ最初の一回しか効果を受けない。が、斎は〔記憶喪失〕でリセットされてしまったため、もう一度効果を受けてしまう。

稲葉病院へ【クライマックスフェイズ】

1. 樹里

車を走らせ、二週間前と同じ道を通って病院へと向かう。以前と違うのは、今この場に栄子と樹里がいないこと。辺りはすでに日が沈み、生ぬるい風に吹かれて木々がざわめく。

「また、ここに来ることになるなんてな」立ち入り禁止のロープをまたいだ先に現れた病院を見やり、齋がつぶやく。

以前と同じく、病院の通用口は開いている。しかし、その扉は風に吹かれてキィキィと音を鳴らしながら揺れていた。

それはまるで、再び訪れた彼らに手招きをしているかのように見えた。

和彦：さあ、樹里を助けにいこう。

冬香：ですねー。

和彦：あ、とりあえずバット持ってきてるってことで。

GM：はいはい。さて、では皆様開いている入口から入りますと、内部の光景は2週間前と変わってません。長い廊下に受付やら診察室やらという感じ。

和彦：「樹里！どこだー！」という感じで呼びかけながら進んでいきます。

GM：ふむ。呼びかけに対してはなんの返答もありません。で、そのまま突き当りの階段まで行きますと以前との変化に気がきます。二週間前にはあった下へ降りる階段のところにあった積み上げられた事務机がなくなっています。

春花：知ってた(笑)。

冬香：知ってた(笑)。

春花：「やっぱり、ここが無くなってますね」

和彦：「じゃあ、樹里はこの奥ってことか」

冬香：「なにか物音とかは聞こえますか？」

GM：「じゃあ、物音で判定してみてください。」

一同：「（コロコロ）」

春花：「失敗した（笑）」。

和彦：「こちらは成功。」

冬香：「こちらも同じく成功。」

斎：「あー、失敗です。」

GM：「ではですね、成功したお二人は階段の先、下の階の方からピリリリリというような携帯の着信音が聞こえてきます。」

和彦：「……下からだな」

冬香：「もしかして、樹里さんの携帯？」

和彦：「かもな。行くしかねえ」

冬香：「上からは何も聞こえない？」

GM：「ですね。上からはなにも聞こえません。」

冬香：「よし、じゃあ下行きましょう。」

春花：「（着信アリの着信音を鳴らす）」

冬香：「うわあ。」

斎：「趣味悪い！趣味悪い！（笑）」

着信音

映画「着信アリ」に登場する死の着信メロディ。当時携帯電話を持っていた人は一回でも着信音にこれを設定した人も多いはず。

GM：違う違う、デフォルトのやつです（笑）。

和彦：じゃあ改めて階段を下りていきます。（笑）

GM：はいはい。では階段を下りると、またまっすぐ長い廊下があります。着信音は廊下の大体真ん中ぐらにある大きな扉の中から聞こえてきてるみたいです。

和彦：「この中に、いるのか……？」

GM：扉の上のプレートには「処置室」って書いてます。

斎：うえ……。

和彦：そっかあ、処置室かあ……。

冬香：入ります？

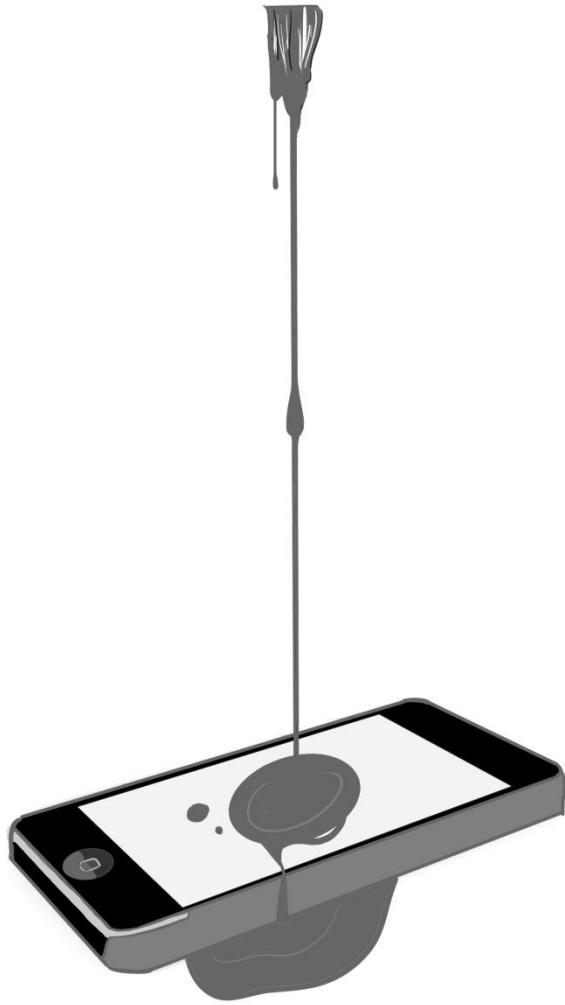
和彦：いこう。

prrrrrrr

灯りのない、長い廊下。その中ほどにある扉の中から着信音は聞こえていた。扉の上には「処置室」と書かれたプレート。「いくぞ……」意を決した和彦が扉を開け、全員が部屋の中を見た。部屋の中央には手術台。その上で血に濡れた携帯電話が光り、鳴っていた。ポタ、ポタと携帯の真上から赤い液体が滴り落ちてくる。和彦達が手術台の上を仰ぎ見る。

天井から、何かが吊るされている。

最初にそれを見た時、それがなんなのか分からなかった。しかし、医学を学んでいたからだろうか。和彦と春花にはそれがなにか、すぐにわかった。あれは、人の皮だ。人の中身をくりぬいた、その抜け殻だ。気付きたくはなかった。しかし気付いてしまった。抜け殻に残る髪の色と、きれいに施された控えめなネイルに。それが、和彦達が探していた樹里であるということに。



GM：ということとで、皆さん狂気判定をどうぞ。さっきの〈医学〉判定で失敗した齋さんと冬香さんは〈拷問〉で、成功した春花さんと和彦さんは〈死〉で-2の修正をいれて振ってください。

齋：おお……（コロコロ）一回も成功しないんですけど！

和彦：（コロコロ）こちらは初めて失敗しました。マイナス修正入って出るわけない！

春花：（コロコロ）出るんだなあこれが。成功です。

冬香：（コロコロ）こちら問題なく。

GM：では失敗した和彦さんと齋さんは狂気カードをどうぞ。

春花：狂気判定成功したんでめっちゃ無表情。すごい感情の無い顔して「和彦さん、これ何かわかります？」

和彦：「……意地の悪い質問するんじゃないよ……。まして、なんでこうなったんだ……！」

GM：ではそんな中、ちよつと〈物音〉で判定してみてください。

冬香：〈物音〉……（コロコロ）失敗。

齋：（コロコロ）こちら失敗。

和彦：（コロコロ）あれ!? 失敗した！

春花：ほいっと。（コロコロ）お、成功。ここにきて出目走り始めたな（笑）。

GM：お、成功したのは春花さんだけですか。ではですね、春花さんはどこからカラカラカラカラというような音が聞こえてくることに気がきます。あれですね、病院のストレッチャーが動くときの音です。

春花：ああ、はいはい。方向は分かります？

GM：廊下の方からですね。

春花：ほう。じゃあ廊下の方を見えます。

カラカラカラカラ

不意に聞こえた音に春花が振り向く。その様子に気づいた和彦が春花に声をかける。「春花、どうした？」「いえ、何か音が……」そう言いながら処置室から廊下を覗き込む。すると、廊下の突き当たりからストレッチャーが一台こちらに向かってくるのが見えた。

カラカラカラカラ

誰かが動かしているのか？そう考え、春花は廊下に出て目を凝らす。しかし、ストレッチャーの周りには誰もおらず、ひとりでに動いているように見える。

カラカラカラカラ……

トン、と。ストレッチャーは春花にぶつかり、停止する。ストレッチャーの上には何も載っていない。その代りに、ストレッチャーの上にはおびただしい血痕が残されていた。「これは……？」「春花ちゃん、どうかした？」「なんだそれ、担架？」「斎と和彦も廊下に出てくる。

不意に。廊下に出た和彦の背中になにかがもたれかかってきた。「うわっ！」和彦は驚き、背中のそれを払いのける。

ドチャッ

廊下に湿った音が響く。それは、さながら人体模型のように見えた。しかし、人体模型にしてはやけにみずみずしく、肉感がある。例えば、人からそのまま皮を剥いだような。

「うわあああっ！」斎は目の前にあるそれに驚き、声を上げる。その一方で、春花はそれを冷静に、どこか冷めた目で静かに見つめていた。「どうしたんですか、そんなに大声を上げて」斎の大声に、和彦も振り向く。そんな時だった。

助けて……痛い……痛いよ……

和彦の背後、床に倒れたそれが声を上げた。

斎くん……助けて……痛いよ……

おそらく、今この場にいる誰もが少し前には気づいていた。願わくば、違ってほしいと望んでいた。しかし、今そこにいるそれは助けを求めた。

「齋くん」と。齋たちは確信せざるを得なかった。それが、「樹里」であると。

GM…とりあえず恐怖判定行きましようか。〈拷問〉でどうぞ。

齋…(コロコロ) やっぱり今回もだめだったよ。(狂気カードを引く)

春花…(コロコロ) 強いなあ。成功した。

GM…春花さん今後一切ビビらないんじゃないですかね(笑)。

和彦…「樹里……！」(コロコロ) うわ、ファンブった！

GM…お、ファンブった？じゃあ狂気カード2枚あげる。

和彦…だれか「お守り」投げてえ！

冬香…ではこちらから、どうぞ。

和彦…ありがとう、ありがとう！(コロコロ) 成功！

冬香…ではこちらも。(コロコロ) 成功。

GM…では、床に転がったそれ、改め樹里は「和彦くん……助けて……助けて……」といった感じでうわごとのようにつぶやき続けます。

和彦…「樹里……！」といった感じで語りかけますが……

GM…返事してる余裕はなさそうですね。ただひたすら苦痛と助けを訴え続けるだけ。皮膚がないのでまぶたを閉じるどころかまぶたすらありません。むき出しの目玉と歯。

和彦…「樹里……すまない……」

GM…「助け……！」という風に言葉が途切れ、それを最後に樹里は静かになります。

冬香…ハンカチを取り出して、樹里さんの顔にかぶせます。

和彦…「なんで……なんでこんなことになるんだよ……！おかしいだろ！俺が何をした、みんなが何をしたっていうんだ！」

斎：「樹里まで……こんなことに……」

GM：さて、ここからどうしましょう？

冬香：とりあえず、奥見に行きます？

和彦：どのみちまだ探索つづけないとなあ。奥行きますか。というか、春花さんが一言も話さない。(笑)

春花：よく気づいたねえ(笑)。

斎：そこが一番怖いなあ。

GM：では、廊下の突き当たりまで行きますと、突き当りには扉があります。扉の上には「霊安室」と書かれていますね。

和彦：「行く、でいいんだよな？」

冬香：「私が行きます」

春花：「行かなきゃいけないでしょう。この中にあの人がいるんだったら」

冬香：扉開けますね。

GM：はい。では扉を開けますと、中は真っ暗です。懐中電灯で照らすと、部屋の中央に棺が一つあるのが見えますね。それだけ。

斎：閉まっています？

GM：いえ、開いています。

和彦：中に誰もいませんか？

GM：部屋の中にはいません。中入りますか？

和彦：はい。で、バット握りしめながら棺に近づいていきます。

GM：ではですね、そうやって棺に近づこうとすると棺の縁からゆっくりと白い手が現れます。白い手が棺の縁をつかみ、中から髪の毛の長い、白い肌の女がズルリと棺から出てきます。女は、ゆっくりとした動作で首を傾け、あなたの方を向きます。

和彦：「カシマサヤ、だな」とりあえず恐怖判定かな？

GM：いや、ここまで来たらもう振らなくてもいいよ。

春花：散々降ってきたからね（笑）。

GM：するとですね、白い肌の女、サヤはあなた方と目が合うとスーツと消えていきます。で、春花さん。女が消えたかと思うと次の瞬間にはあなたの肩口に何者かの息遣いと耳元でささやく声が聞こえます。「オネエチャン……」

春花：ああ……（笑）。

GM：で、他の人から見るとサヤが春花さんの肩口から手を回してしなだれかかっているように見えます。

和彦：「えらく懐かれてんなあ、おい」

GM：春花さんの耳元で、サヤは囁き続けます。「オネエチャンニ、ウバワレタ……カレヲウバッタ、アノオンナガニクイ……コロサナキヤ、コロサナキヤ、コロサナキヤコロサナキヤコロサナキヤコロサナキヤ」

春花：そうですね……。じゃあ演出として、カメラが口元をアップしまして、それまで横一文字に結んだのをニヤツとしようかな。

GM：というところで、ここからは戦闘に入っていきたいと思います。

2. コロシテヤル

GM：さて、それではここから戦闘です。まずはプロットから。全員ダイスを一つ好きな面を上にしてそれを隠して置いてください。

インセインの戦闘では、最初にプロットというものを行う。これは、各キャラクターのプロット値を決定するもので、それぞれがダイスを一つ握り、プロット値にしたい数字の面を上にして隠して置き、全員のプロット値が決まったら一斉に公開する。戦闘では、プロット値の大きなものから先に行動を処理していく。但し、安易にプロット値を大きなものにしてしまうとその分相手の攻撃を回避しにくくなってしまったため注意が必要である。ま

た、他のキャラクターとプロット値が同じになってしまった場合、バッティングが発生しダメージを受けてしまう。

和彦…ちなみにこれって中間戦闘です？

GM…ん、クライマックスフェイズでの戦闘ですのでダメージ1点で脱落はしませんね。

和彦…あ、そっかそっか。じゃあバッティングでダメージくらって脱落とかはないのか。

GM…皆さん決まりましたかね。それでは、プロット公開！

それぞれのプロット値は以下のようになった。

6…カシマサヤ

1…他全員

春花…あ、バッティング。

斎…全員(笑)。

GM…バッティングした方は危険感知もつてなかったら1点ダメージくらってください。

春花…はい。(コロコロ)あ、失敗した。

GM…じゃあダメージどうぞ。

和彦…一個ずらすべきか悩んだんだけどなあ。

●第一ラウンド

GM…ということでもまず最初に6、サヤの行動。へ取り憑きを宣言します。対象は春花さん。へ靈魂で判定してください。

春花…あ、はい。

和彦…ですよー。

中間戦闘

ミドルフェイズにおいて戦闘が発生した場合、一点でもダメージを受けたキャラクターはその時点で戦闘から脱落する。しかし、クライマックスフェイズでは生命カが尽きるか、自主的に宣言するまで脱落しない。

取り憑き

自分を対象にしたダメージが50%の確率で取り憑いた対象に入るようになるアビリティ。自分がダメージを受けるまで持続する。

春花…6で成功……(コロコロ)うん、成功した。

GM…ではそうですね、サヤは春花さんの身体を乗っ取り他の方に殴りかかろうとするのですがどうもうまく動かない様子。

春花…「必要ありませんよ……。私は私です」

齋…うわあ。

和彦…こええなあ。

プロット値が同じ場合は1D6を振って出目の高い順に行動する。結果、齋、春花、和彦、冬香の順に行動することになった。

GM…ではまず齋さんからどうぞ。

和彦…君のやりたいようにやってくれ。

齋…サヤに対して【基本攻撃】。△殴打△で判定します。(コロコロ)9、成功です。

GM…ではこちらは回避。プロット値6なんで回避目標値は10。(コロコロ)失敗です。

齋…では1D6+2点ダメージ。(コロコロ)4点どうぞ。

GM…4点ね。まだ大丈夫。

齋…あ、通りました？狂気【血への渴望】が発動します(笑)。

〔血への渴望〕自分が誰かにダメージを与えた時に発動。

「あなたは思う存分、残虐に振る舞いたいと思っている。この狂気が顕在化したシーンに登場している自分以外のPC全員が、暴力の分野からラ
ンダムに特技一つを選び、恐怖判定を行う」

和彦…えー!?

春花…ああー(笑)。

和彦…殴らん方がよかったやんか!

83 基本攻撃

あらゆるキャラクターが持っている攻撃用アビリティ。任意の特技を指定して判定し、1D6点のダメージを与える。

ダメージ

自分が表向きの狂気カードを持っている場合、表向きの狂気1枚につきダメージが1点上昇する。

齋：なんていうんだろう、「殴らなきゃ！（使命感）」みたいな感じだったから（笑）。

GM：じゃあそれぞれ自分の振る特技をランダムで決定してください。2D6振って特技表参照してね。

和彦：振りまーす。（コロコロ）10、〈射撃〉。遠いなあ。

春花：（コロコロ）3、〈拷問〉。ってことは9以上。

冬香：（コロコロ）8、〈切断〉。一番遠い気がする。

狂気判定は和彦、冬香が成功。春花は失敗し、狂気カードを1枚引いた。

GM：では狂気の処理も終わったところで、齋さんにダメージをもらった段階で【報復】を宣言。

和彦：お、1点飛んでくるか。

GM：へ人類学で判定します。（コロコロ）5、ギリギリ成功。そちらもへ人類学で判定して、成功すれば効果は受けません。

齋：へ人類学は持つてるっていうね。（コロコロ）成功。

GM：では【報復】は無効化されます。

齋：そちらに近づいて行って春花ちゃんの肩口にいるサヤを思いっきり殴りつけます。狂気が発動してるので一発では止まりません。

「栄子と！樹里を返せよ！その上春花ちゃんにまで手を出しやがって！」死ね！って感じで殴りつけます。

GM：もう死んでるけどな（笑）。じゃあそんだけ殴つてると、多分拳の皮膚とかめくられて血が出てますが、アドレナリンでバドバで痛

覚麻痺してるんで【報復】はノーダメージ、という感じですかね。

和彦：次は、春花ちゃんか。

GM：そらなんか顔の横でそんなスプラッタされたら怖いわな。春花さん行動どうぞ。

春花：怖いですねえ（笑）。じゃあこは【戦場移動】を宣言します。

GM：ほうほうほう。では次のラウンド開始時にプロットのやり直しですね。では続いて、和彦さんの行動どうぞ。

報復

ダメージを受けた際、攻撃してきた相手にも1点のダメージを仕返しするアビリティ。

殴りつける

顔のすぐ横で幽霊と友人が殴り合いを始めているのにすごく静かなあたり、現在の春花の精神状態が窺える。それにしても、幽霊に殴りかかる大学生と殴られ続ける幽霊の姿は中々にシュールな光景である。

和彦：よつしや、春花さん殴ります。

春花：あつ、ふーん。

GM：ほう、春花さん殴る。サヤじゃなくて？

春花：いいよ。大丈夫大丈夫、殴っても嫌になつたりしないから。

和彦：プライズはがさなきやいけませんからね。自主的に脱落して破棄するようには見えませんし。だったら、殴った方が早い。

斎：あー、なるほど。まあ、キミはそうすればいいよ。

和彦：えつ。

春花：その【秘密】わかんないからなあ。

和彦：まじでもう勘弁してよお。

春花：いきなり隣の頼れる仲間が女の子殴り始めたらなあ（笑）。

GM：どう見てもやばい奴やな（笑）。

和彦：バット持ってるし、俺の攻撃特技（破壊）ですよ（笑）。

GM：男勢のサディスティックが止まらない。

一同：（笑）

和彦：いいよもう、サヤ殴るよ！

GM：あ、結局サヤ殴んのね？じゃあ判定どうぞ。

和彦：【基本攻撃】（破壊）で。（コロコロ）成功！

GM：目標値10で回避。（コロコロ）失敗、ダメージくださいな。

和彦：（コロコロ）1点です。ひっく。

85 戦場移動

インセインの戦闘において、プロットは通常、戦闘開始時の一回のみ行い、残りのラウンドはそのプロット値のままである。しかし、このアビリティを使用すると全員が次のラウンドの開始時にプロットをし直す。

バット持ってるし

バットと拳で殴られ続ける幽霊の囚。シールドを通り越してかなりバイオレンス。

サディスティックが止まらない

もしかして↓CCBB

GM：では冬香さん。

冬香：へ恋で殴るー。

GM：へ恋で殴る!?(笑)

斎：どういうことなの(笑)。

冬香：おらあ。(コロコロ)失敗!

和彦：失敗してんじゃねえか(笑)。

GM：そら恋で憎悪の塊倒せるわけないわな。

●第三ラウンド

第二ラウンド開始時、「戦場移動」の効果で再度プロットが行われる。プロットの結果、サヤがら、和彦と冬香が2、斎と春花が1となり、それぞれバッティングして1点のダメージを受けた。この時、再度春花が「危険感知」の判定を行うも、失敗しダメージを受けた。

GM：では、行動に移りましょう。まずはまたサヤから。再度春花さんに【取り憑き】を試みます。【靈魂】で判定をどうぞ。

春花：いいよ、こいよ。(コロコロ、成功)あぶねえあぶねえ。

GM：相性がいいのか悪いのか、取り憑こうにも取り憑けませんねえ。では次行動2の方！

和彦：行動順きめまーす。(コロコロ)6。

冬香：(コロコロ)2。

GM：じゃあ和彦さんからですね。行動どうぞ。

和彦：サヤ殴ります。【報復】来るけどまあしかたないね。

GM：【基本攻撃】ですね。判定どうぞ。

恋で殴る
例↓石破ラブラブ天鷲
拳

和彦：殴るでー。(コロコロ) 外れたでー。……もうだめだあ。

GM：じゃあ次、冬香さんどうぞ。

冬香：こちらももっかい(恋)で殴ります。(コロコロ) ファンブル(笑)。

和彦：失敗してんじゃねえか！(笑)

GM：狂気カード一枚どうぞ。

冬香：このダイスもう使わない。

一同：(笑)

GM：さて、次の行動は……

春花：あ、ごめん。狂気発動。

GM：あ、今のファンブルで発動ですか？

春花：いや、バッティングでダメージを受けた時に発動してたけど忘れてた(汗)。(狂気カードを開く)

〔バニック〕自分がダメージを受けた時に発動。

「あなたは、暴力が恐ろしい。戦闘になると、その心はひどく動揺してしまう。自分が新たに〔狂気〕を公開するまで、戦闘中のファンブル値が1上昇する。」

和彦：パニックってるうー。

春花：ぶっちゃけ影響は薄い。

GM：では改めて、プロット値1の方、行動順を決定します。1D6を振ってください。

春花：(コロコロ) 4。

斎：(コロコロ) 3です。

GM：はい、では春花さんから。

春花：【戦場移動】。

GM：はい。じゃあ次斎さん。

斎：私です。じゃあ、サヤ殴りましょう。【基本攻撃】、△殴打で判定。（コロコロ）成功。

GM：はい。回避ー。（コロコロ、失敗）ダメージください。

和彦：1D6+3か、強いなあ。

斎：（コロコロ）1。4点か。こう、「何度も何度も！」といった感じで殴りつけます。

GM：ではよろしいですかね？では第三ラウンド入ります。

●第三ラウンド

三度、プロットが行われる。結果、サヤが6、冬香が3、和彦が2、斎が1となり、バッティングは発生しなかった。

GM：ではサヤの行動。今度は冬香さんに行きます。【取り憑き】。△靈魂で判定をどうぞ。

和彦：目標値は？

冬香：8ですね。

和彦：じゃあ正気度削って感情修正入れます。

冬香：これで7。（コロコロ）失敗！

和彦：ダメじゃん！

GM：よしよし。以後、サヤにダメージが通るまで1/2で冬香さんにダメージがいきます。イメージとしては、斎さんに殴られ続けているサヤがふっと消えたかと思うと、冬香さんの背中にへばりついてるような感じ。

和彦…やばいやばい、殴れない。

斎…どうすつかなあ、これ。

和彦…キミのやりたいようにやればいいよ。

斎…そうかあ（微笑）。

GM…では次、3の冬香さん行動どうぞ。あ、ちなみに背中にいるそいつ殴ろうと思えば殴れますよ。

冬香…殴って出たダメージは返ってくる？

GM…半分の確率で返ってくるね。

冬香…じゃあ殴ります。妹痛めつけるぐらいなら自分の顔殴る。

春花…かつこえー！でもごめんねー（笑）。

冬香…△恋△で【基本攻撃】。（コロコロ）成功。

GM…（コロコロ）あたります。ダメージください。

冬香…1D6点ダメージ。（コロコロ）お、でかい。6点。

GM…やばいやばい。ダメージ先は（コロコロ）偶数、サヤにダメージが入ります。累計15点。

斎…恋の一撃は重かった（笑）。

春花の背中に覆いかぶさるようにして取り憑くサヤと、それを引きはがすように殴りつける斎。再度、斎が殴ろうとすると、ふっとサヤの姿が消える。

同時に、冬香は自分の背中に冷たいものがのしかかる感覚に襲われた。冬香の耳元で、サヤはぶつぶつと怨念を込めて囁く。

コロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤルコロシテヤル

冬香の首にゾツとするほどに冷たい物が触れる。サヤは、冬香の背後から手を伸ばしその首を絞めようとしていた。冬香の首に圧がかかる。だが。

「春花から離れたな」

冬香は体をひねり、振り向きざまに肘打ちを放った。手こたえはなかった。が、冬香の肘はサヤの頭部へと確かに直撃したように見えた。すると、サードとサヤの姿は消えていき、あたりに漂っていた冷たく重苦しい空気が抜けていくのが感じられた。

GM：ということで、サヤは戦闘から退場します。と同時に、春花さんの意識がふつと途切れますね。

春花：ふんふん、じゃあそのままその場で膝から倒れましょう。

斎：近くにいましたんで、「春花ちゃん!」といった感じで駆け寄りましょう。

GM：サヤは戦闘から退場、春花さんも気絶したということで退場となりまして、戦闘は終了。プライズの放棄条件を満たしました。

冬香：よっしゃ、プライズ落ちた。

和彦：じゃあルール上としては、私が勝利者になって春花さんからプライズを奪って破棄、という形で。

冬香：私が奪って、捨てないって言ってもいいんですけどね。

一同：（爆笑）

春花：お、またゴング鳴るか？（笑）

3. 本当の想い

GM：ということで、和彦さんがプライズを破棄してサヤの呪いが解けたということでこれをどうぞ。（春花に紙片を渡す）

和彦：は!?

GM：ああ、大丈夫。これはプライズで書き換えられる前の本当の【秘密】だから。

春花：（黙読）あー、なるほどなるほど。よかったねえ。

GM: その【秘密】に関しては公開するしないは任意でどうぞ。春花さんの【秘密】の情報抜いてた人には見せていただいても構いませんので。

91
やったか!?

春花: まだ見せない。

和彦: いつ調べるんですかこれ?

GM: 別に見たいって言って本人がいいよって言ったから見たいよ。

和彦: え、じゃあ見たいんですけど。

春花: まあだ。

冬香: まだだったらいいや。楽しみにしてよう。

斎: とりあえず重苦しい空気は消えたんですよね?

GM: そうですね、消えました。

斎: 「やったか!?!」

一同: (爆笑)

和彦: やめろお!

春花: 惨劇はまだまだ終わらないんですね、わかります。

斎: ではまあ、「ふう……」と言って息をつきます。

和彦: 「これでやったのか? 本当に?」

斎: 「わからない。ただ、重苦しい空気は消えた」

冬香: 「春花、大丈夫?」

斎: 「息はあるようだ」

古今東西色々な場面で使われてきた伝統の様式美。大体やってない。

和彦：「起こそうとして起きますか？」

GM：「そうですね、目は覚めます。」

春花：「んっ……あれ……」といった感じで起きます。

和彦：「今ここがどこで、キミが誰なのか、そして今までのこと、覚えてるか？」

春花：「……はい。全部、覚えています。和彦さんの御宅でとんでもないことを口にしてしまったことまで、全部……」

和彦：「そうか……」

春花：「あの時の気持ち、残ってないと言えはそれは嘘になります。ですけど、私も皆さんとはそれなりにお付き合いをさせていた
だいてますから、皆さんのお気持ちは何となくわかってるんです。だから、その邪魔をしちゃいけないって。ごめんなさい、余
計な心配をおかけしてしまって。私はもう大丈夫です。だから、あの時のことは忘れてください。和彦さんは、和彦さんのままで
生きてください」

和彦：「……」

春花：「……ここにいってもあれですし、外に出ませんか？」

和彦：「そう、だな。帰ろう」

4. 脱出

それぞれの日常へ帰るために、霊安室を出て外を目指す。樹里の遺体をそのまま街まで運ぶわけにもいかないため、一旦外に出て警察を呼ぶこ
とにした。2週間前の肝試しから始まり、友人二人が亡くなってしまった。どうしてこんなことになってしまったのか。皆口をつぐみ、廊下を歩く。
それは、1階の廊下を中程まで進んだ時だった。

ズル……ズル……

「なんだ、今何か……」音に気付き、振り返る。

ズル……ズル……

彼らの背後から、肌は焼け爛れ、髪は縮れ、顔の崩れてしまった女が足を引きずりながらこちらに迫っていた。女は手を伸ばし、かすれたうめき声を上げながら徐々に近づいてくる。

「おいおい……」横目で入口を確認する。扉は開いている。

「走れ！」和彦が叫んだのを皮切りに、4人は入口をめがけて走り出した。しかし。

バン！

突然、目の前の扉が大きな音を立てて閉まる。和彦達が扉を叩き、ドアノブを捻るが外から強い力で抑えつけられているかのように全く開かない。

ズル……ズル……

そうしている間にも、背後から女は徐々に近づいている。「くそっ」和彦は悪態をつきながら背後を振り返り、前に出てバットを構えた。

GM：それではここから最終戦闘です。で、プロットを行う前に少し説明があります。まず、背後の女、サヤの生命力が全快します。加

えて、基本攻撃の攻撃力が2D6に変更されます。

斎：ああ……これはだめかもわからんね。

和彦：かばってたら死ぬな。逃げるか？

GM：逃走する場合は、処理的には戦闘からの自発的な脱落という扱いになりますね。

和彦：扉閉まつてるし……。窓割つてとかか。

斎：窓とか扉って壊せそうですか？

GM：んー、そのあたりは戦闘始まってからですかね。それでは戦闘に移りましょう。プロットから。

最終戦闘最初のプロット。サヤがら、冬香が3、和彦が2、春花と齋は1となり、バッチェングが発生。しかし、春花は【危険感知】を成功させ、一人ダメージを回避した。

●第一ラウンド

GM：ではこちらの手番から。春花さんに【取り憑き】。△靈魂△で判定してください。

春花：ふむふむ。(コロコロ) 成功。

GM：ではですね、もう一度すがりつくかのように春花さんに手を伸ばしてきます。

春花：んー、じゃあその手は取る。

和彦：「春花ちゃん!？」

GM：見て触ると改めてわかります。手は焼け爛れてしまっています。爪ははがれ、皮膚も溶けて垂れ下がっているような状態ですね。

春花：「……辛かったんですよね、苦しかったですよね。分かります、私もあなたの心に触れていたから……。でも、ごめんなさい。

私は生者で、あなたは死者なの。だから、一緒に入られません」といって手を離しましょう。

GM：ではその手はぶらんと下げられて、そこで動きは止まります。では続いて、行動3の冬香さん。

冬香：逃走、できるかな？窓の確認はできますか？

GM：わかりました。ではここで逃走判定の説明をしましょうか。本来であれば△知覚△分野からランダムなのですが、今回は指定させて

いただきます。△情景△で判定してください。

和彦：△情景△……勝ち目がない……。

冬香：目標値7で(コロコロ) 成功。

GM：冬香さんが逃げられそうな場所を探していると、ふと暗がりから手招きする腕が見えます。で、その方向を照らしてみると一か所だけ窓が開いています。そこから外に出られそうですね。

冬香：なるほど。ではそのことを手短かに周りに伝えて先に外に出ます。

GM：では続いてプロット値2の方。和彦さんどうぞ。

和彦：冬香さん外でたし、俺も逃走かなあ。

GM：ではハ情景で判定をどうぞ。

和彦：遠いなあ……。回想シーン入れませう。

「あなたは、PC②に対して誰にも打ち明けてはいたないながらも少なからず好意を寄せている。下心がないと言えは嘘になってしまうが、もしも彼女に何かあった場合身を挺してでも彼女を守らなければとあなたは考えている。あなたの本当の使命は『PC②を守る』ことである。」

和彦：好きだから守るんだよ！

春花：かつこいいぞPC①。

和彦：俺最初っから冬香さんなんですよ！

春花：知ってる。だからこそその略奪愛つてもんだらう。

和彦：なので、『秘密』を公開して判定の達成値+3！冬香さんのもとに駆けつけます！

GM：では判定をどうぞ。

和彦：（コロコロ）やったぜ。「お前ら、はやくこいよ！」

GM：というところで、和彦さんも脱落。と。ではプロット値1のお二人。行動順を決めてください。

春花：あいあい。（コロコロ）2。

斎：（コロコロ）3。こちらが先ですね。といっても俺の行動は春花さんの方針によるんですが。

春花：え、どうしたい？

斎：正直見捨てるのもあれなので残るなら私はサヤ殴ります。

春花：逃げていいと思うよ？

和彦：え、でも逃げないんですよね？それ公開しない限り堂々巡りな気が……。

春花：あ、さっきの【秘密】？いいですよ、別にこれは回想シーンもへったくれもないですし。

「あなたは、PCC①に対して好意を抱いている。しかし、あなたはPCC①がPCC②に向けている視線の意味になんと気づいている。それ故にあなただけは大切な友人を本当に傷つけてしまいかねない。あなたの本当の使命は『カシマサヤの呪縛を解く』ことである。」

春花：早い話、こっちの本当の秘密は身を引くことだから。

和彦：それ公開するのもっと早くしてくださいよお！

春花：さてどうしてくれようかなあ、この悲哀どうしてくれようかなあ。

和彦：呪縛解けてますし、達成してるんで逃げてもいいんじゃないですか？

春花：そっち【秘密】？どうなの？ぶっちゃけた話。

斎：ぶっちゃけると、私はあなたがここにいる限り逃げられませんね。

春花：まじで？（笑）

斎：そして私はこの【秘密】は胸の中にしまい続けているつもりです（笑）。死んでも公開する気はありませんね！

GM：そろそろ行動決まりましたかね？

斎：私の方が行動速いですよね、これ。

GM：ですね。

斎：…というかさつき取り憑こうとして手を伸ばしてたんですね？

GM：…うん。

斎：殴るだろ。サヤに対して【基本攻撃】、へ殴打で。

GM：…では判定どうぞ。

斎：「しつこいんだよおー」といった感じで。(コロコロ) 成功です。

GM：…回避ー。(コロコロ) はい、いただきます。

斎：ダメージが、(コロコロ) 8点！ではサヤと春花ちゃんの間割って入って殴り飛ばします。

GM：…8点か、痛い痛い。次、春花さんどうぞ。

春花：…これ【戦場移動】宣言しなかった場合つてき、バッティングまた発生するんだっけ？

GM：…いえ、バッティングはプロット公開時なんで発生しません。

春花：…おっけい、じゃあボコつていくわ。

GM：…お、殴りますか。

和彦：…これ俺らも残って殴ればよかったじゃん。

春花：…別に、ここに骨を埋めるつもりはないですけど、中の人の黒い発言するとただで終わらすつもりもない。

一同：…(笑)

春花：…あ、でも殴れないなあ。やっぱり1ターン目は【戦場移動】を宣言します。

GM：…わかりました。

●第二ラウンド

「戦場移動」の効果で、再度プロットを行う。結果、サヤがら、春花が2、齋が1となりプロットがばらけたためバツティングは発生しなかった。

GM：では、再度こちらから。今回は殴ります。対象は春花さん。【基本攻撃】、特技はへ恨みで。

春花：恨み（笑）。

GM：振りまーす。（コロコロ）あ、失敗した。

齋：おお。

GM：では、先ほどのセリフを投げかけられると急に雰囲気が変わります。使えないならお前も、的な。たださつき殴り飛ばされたんで距離が足りない、ということでも攻撃できませんでした。ということも続いて春花さん。

春花：逃げるためには（情景）で判定か。目標値6だねえ。さて、今の所この子に相手を殴るという選択肢はない。ないんだけどなあ。

和彦：【戦場移動】という逃げ。

春花：【戦場移動】はここまでくるともはや誰得なんだよなあ。そっち生命力いくつ？

齋：「鎮痛剤」込みで3です。

春花：こっちも「鎮痛剤」込みで4だしなあ。よし、ちよつとだけロールはさむか。位置関係的には多分こっちの方が後ろなんだよね。

齋：そうですね、さつき間に割り込んだんで。

春花：とりあえず二人逃げたじゃないですか。で、少しだけ気の抜けた感じで「さて、どうしましょうか？」

和彦：逃げるよ。

冬香：逃げるよ。

齋：「それは……キミに任せるさ。キミが逃げるなら俺も逃げるし、キミが残るなら俺も残るよ」

春花：ちよつと弱気な声で「ここにきてこんなこと言うのものなんなんですけど、私ちよつとだけ迷ってるんです」

齋：「迷ってるって、何に？」

春花：「私、あの人の気持ち分らないくないんです」

斎：「女性だからわかる気持ちってやつかな、俺にはわかんないよ」

春花：改めてぼそっとしゃべりましょう。実は和彦さんのこと好きだったんだよ！以下略。

斎：じゃあ一応【秘密】見て知ってるけど私的にあんまり知りたくない情報なのでごまかしましょう。

春花：「さすがにごまかしたってわかりますよ（苦笑）」

GM：なんか割と悠長に喋ってますけど目の前からやばいの来てますからね（笑）。

春花：じゃあ最後まで一言だけ。「だから、ここに来て分らなくなっちゃって。私、どうするのが良かったのかな」

斎：「それは俺にもわからない。でもキミは別に間違ったことはしてなかったさ。キミの思うようにしてればいい。それに、どう転ば

うとも俺はキミをここで死なせるつもりはないよ。倒せるかわからないけど、ここに残るんだったら俺はあいつを倒すし、逃げるならキミだけは絶対逃がしてみせるから。気持ちの整理をつけるなら、全てが終わってからも遅くはないさ。」

春花：無理に作ったような笑顔で「そう、ですね。これ以上皆さんにご迷惑をおかけするわけにはいきませんし」って言って、逃げる

かチャレンジするー。

GM：はい、どうぞ。

春花：△情景だろ？6だろ？いけるいける。（コロコロ）クリティカル（笑）。

冬香：これはもう逃げろって言われてますわ。

GM：クリティカルしたんで生命力が正気度1点回復しといてください。

春花：じゃ正気度で。

GM：じゃあ最後斎さんの行動。

斎：さて、私か。

和彦…お前ももう逃げろよ。

斎…いや、逃げるのは確定だよ。確定なんだが……

冬香…今もうその場にPCいませんし【秘密】ばらしちゃってもいいんじゃないですかね？

和彦…サヤ相手に？

春花…俺はあ！あいつのことがあ！好きだったんだよお！

GM…それ「学校へいこう！」のあれじゃないですか（笑）。

斎…よし、じゃあ私は【秘密】を公開します。

「あなたは、PC④に対して好意を寄せている。しかし、あなたはあの肝試しから帰って以来PC④の様子に違和を感じている。バツと見は今までと変わっていないように見えるが、なんとなくあなたには彼女の中で何かが変わってしまっているように感じるのである。あなたの本当の使命は『違和感の正体を暴き、PC④を元に戻す』ことである。

斎…彼女も逃げましたので、私も逃げます。【秘密】を公開したので判定に+3。

GM…はい、じゃあへ情景で判定をどうぞ。

斎…これでっ。(コロコロ) 成功です。では最後、サヤの方に向き直ってちよつと悲しげな表情で見た後、「俺は、キミの想い人とは違って一人だけを選ぶことにするよ」と言っつて背を向けて走ります。

斎が窓から出たのを最後に、4人は乗ってきた車へと向かい、自分たちの住む街へと帰る。街へと着くころには夜が明け、東の空に日が昇り始めていた。ふと、春花の懐から一枚の写真が落ちる。写真には、仲睦まじく写る見覚えのない男女が二人、幸せそうに写っていた。

学校へいこうのあれ

一九九七年から二〇

〇八年まで放送されて

いたバラエティ番組「学

校へ行こう！」内のコー

ナー「未成年の主張」の

こと。中高生が学校の

屋上から思いのたけを

叫ぶ。最後は大体好き

な人への告白だった。懐

かしい。

「次のニュースです。」

今月〇日にS県R市の病院跡で、変死体で発見された6名の遺体の身元が判明しました。

死亡していたのは、いずれもR市の隣のK市に住む大学生、小室栄子さん二十歳、柚木樹里さん二十歳、小泉和彦さん二十歳、痕楽齋さん二十歳、北大路冬香さん二十歳、妹の春花さん十九歳の6名です。

小室さんら6名は2週間前の△日から行方が分からなくなっていました。今月〇日にR市の山中にある稲葉病院跡地から変死体となって発見されました。

これに対し警視庁は、事故と事件両方の観点から捜査を進めるとして……」

あとがき

この度は、立命館大学TRPG倶楽部会誌「冒険の書惨番」を手にとったいただき、誠にありがとうございます。今回のGM、および本書の編集をさせていただいた八十と申します。編集作業中、部屋で謎の異音が鳴ったり録音データに謎の笑い声が入っていたりと怪現象にみまわれましたが、私は元気です。

さて、現代世界でニンジャVSニンジャ、童話世界でダークファンタジーと続いて、今年度はモダンホラーなシナリオとなりました。いかがでしたでしょうか？今年もなかなかTRPGの王道というものからはかけ離れてしまっている気はしますが、手に取ってくださった皆様にも少しでもTRPGというものに興味を持っていただけたのなら幸いです。

学園祭期間中、当サークルはTRPG体験会を行っております。また、それ以外にも毎年6月末、11月頃にコンベンションというTRPGを遊ぶことができるイベントを開催しております。今年は例年より少々遅い11月30日に開催させていただきますので、少しでもTRPGというものに興味を持たれた方は是非遊びに来てください。詳細は学園祭期間中に部員に尋ねるか、当サークルの公式HPまたは公式Twitterをご参照ください。部員一同皆様のご来場をお待ちしております。

最後になりましたが、プレイヤーとして参加してくれた方々、挿絵を描いてくれたバンドー君、そして、文章構成や添削を手伝ってくれた部員皆さんには、心から御礼申し上げます。皆さんの協力なくして、本書の完成はあり得ませんでした。

それでは、これを読まれた皆様にTRPGを遊んでいただけることとTRPG界の更なる発展を願いつつ、筆を置かせていただきます。

先日発売の某和製ホラーゲームを楽しみながら 八十



立命館大学
VRPG 倶楽部